

名寄市総合計画(第3次)策定に向けた アンケート調査報告書

《概要版》

令和8年1月
名寄市

目 次

I アンケート調査の概要	1
1. 調査の概要.....	1
2. 調査の回答状況.....	2
3. 集計結果の表し方.....	3
II 市民アンケート調査結果	4
1. 名寄市への愛着度.....	4
2. 名寄市の住みやすさ.....	5
3. 名寄市への定住意向.....	6
4. 市外への転出理由.....	7
5. 若い世代の移住・定住促進のために必要なこと.....	8
6. 結婚と出産・子育て.....	9
7. 施策項目別の満足度と重要度.....	14
8. 今後力を注ぐべき取組.....	20
III Well-Being アンケート調査結果	21
1. 幸福度と生活満足度.....	21
2. 因子別の状況.....	22
3. 幸福度と因子の相関.....	23
IV 関係団体・事業者アンケート調査結果	24
1. 現状の課題.....	24
2. 活動の充実に向けて市に期待すること.....	25
3. 協働のまちづくりを進めるために重要なこと.....	26
4. 今後、市が特に力を入れるべきこと.....	27
V 市職員アンケート調査結果	28
1. 施策項目別の充足度と重要度.....	28
2. 名寄市が目指すべきまちづくりの方向.....	33
3. 重視すべき視点や重点課題.....	33
4. 重点施策案の主要意見.....	34

I アンケート調査の概要

1. 調査の概要

本調査は、市民ニーズの把握や今後の意向、関係団体等の現状と支援ニーズなど、「名寄市総合計画（第3次）」を策定するために必要な基礎資料の収集を目的として実施しました。

■児童・生徒・学生向けアンケート調査

	小学生・中学生・高校生向け調査	大学生向け調査
調査対象	市内の小学校、中学校、高等学校に通学する児童・生徒	名寄市立大学在籍者
調査期間	令和7年8～9月	調査票配布・回収：令和7年7月 Webによる回答：令和7年9月
調査方法	アンケート案内文の配布 Webによる回答	アンケート調査票の配布・回収 Webによる回答
調査票種類	小学生：2種（低学年向け、高学年向け） 中学生：1種、高校生：1種	大学生：1種

■一般市民向けアンケート調査

	一般市民向け調査	Well-Being調査
調査対象	名寄市に在住する全市民（約24,200人）	
調査期間	令和7年11月	
調査方法	広報別冊（URL/二次元バーコード掲載）の配布（12,156世帯及び公共施設等） Webによる回答	

■関係団体・事業者向けアンケート調査

	関係団体向け調査	事業者向け調査
調査対象	名寄市内で活動を行っている関係団体及び事業者	
調査期間	令和7年9月	
調査方法	アンケート案内文の配布／Webによる回答	

■市職員向けアンケート調査

	市職員向け調査
調査対象	名寄市役所に在籍する職員
調査期間	令和7年12月
調査方法	グループウェアによる周知／Webによる回答

2. 調査の回答状況

■児童・生徒・学生向けアンケート調査

		配布数(票)	回収数(票)	回収率(%)
小学校低学年		529	509	96.2
小学校高学年		537	472	87.9
中学生		556	435	78.2
高校生		389	291	74.8
大学生	調査票回答分	553	416	75.2
	Web回答分	—	3	—
	合 計	553	419	75.8

■一般市民向けアンケート調査

		一般市民向け調査		Well-Being 調査	
		回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
全 体		767	100	405	100.0
	20歳未満	24	3.1	14	3.5
	20代	64	8.3	29	7.2
	30代	126	16.4	58	14.3
	40代	164	21.4	88	21.7
	50代	179	23.3	102	25.2
	60代	123	16.0	64	15.8
	70代	75	9.8	44	10.9
	80代	11	1.4	6	1.5
	90歳以上	1	0.1	0	0.0

■関係団体・事業者向けアンケート調査

	配布数 (票)	有効回収数 (票)	有効回収率 (%)
関係団体向け	106	58	54.7
事業者向け	128	56	43.8

■市職員向けアンケート調査

	配布数 (票)	有効回収数 (票)	有効回収率 (%)
市職員向け	489	286	58.5

3. 集計結果の表し方

(1)全体共通

- 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比(百分率)で表現しています。
- 百分率による集計では、回答者数(該当質問においては該当者数)を100%として算出し、本文及び図の数字に関しては、全て小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。また、複数回答の設問では、全ての比率の合計が100%を超えることがあります。
- クロス集計(男女別の集計など)の表については、分析軸の項目の後に(n)として、各項目の回答者数を表記しています。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合は表示していません。よって、「全体」の数値と各項目の合計が一致しない場合があります。

(2)Well-Being調査の偏差値と相関係数について

- 偏差値による集計結果は、デジタル庁の「地域幸福度(Well-Being)指標」サイトで算出された値(令和7年12月20日現在)を用いています。(人口10万人以上かつ回答数100以上の自治体の平均値を偏差値50として計算)
- 比較対象としている北海道のデータは、回答者数2,578人のうち札幌市が1,073人(41.6%)を占め、残り58.4%も旭川市や函館市など総人口が多い14市を対象としています。
- 2つのデータの「関係性の強さ」を分析するため、相関係数の算出を行っています。当報告書では、相関係数値が0.7以上を「非常に強い相関」、0.4～0.7を「強い相関」、0.4未満を「弱い相関」と表現することとします。

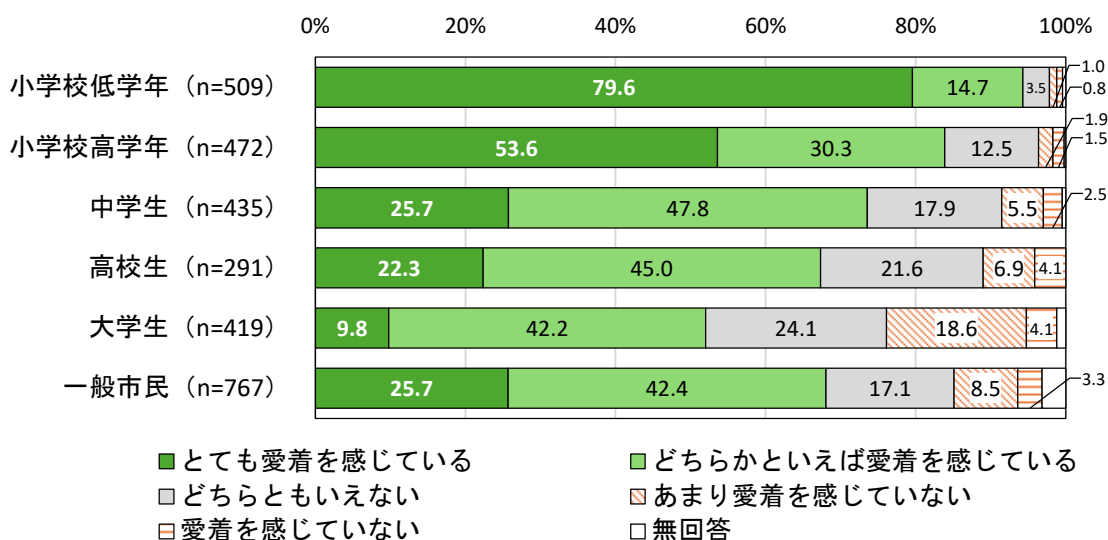
II 市民アンケート調査結果

1. 名寄市への愛着度

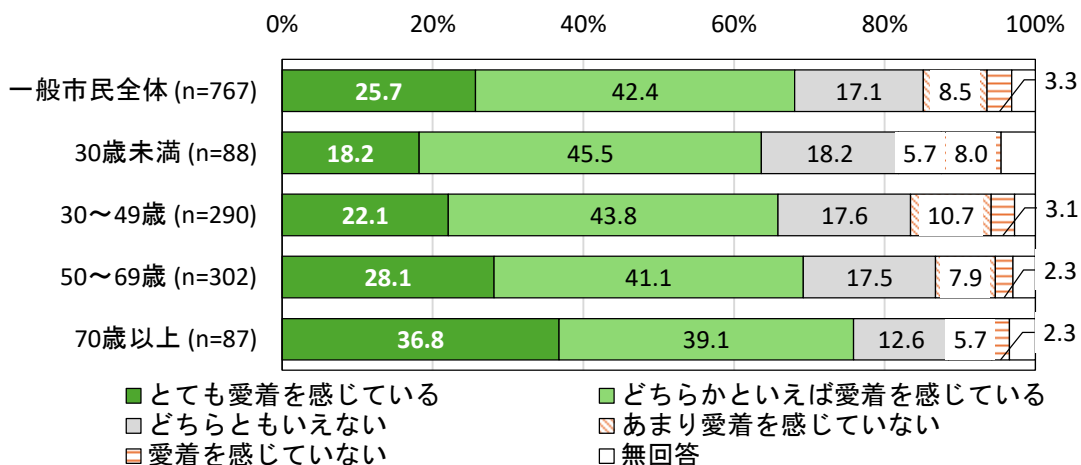
名寄市への愛着度を調査対象者別でみると、「とても愛着を感じている」「どちらかといえば愛着を感じている」の合計は小学校低学年が94.3%で最も高く、大学生はその割合が52.0%で最も低くなっており、市外からの転入者が多いことがその要因になっていると考えられます。

一般市民を年齢階級別でみると、30歳未満で名寄市に愛着のある人の割合は63.7%でほかの年齢階級と比べて低い状況です。

■名寄市への愛着度(調査対象者別)



■名寄市への愛着度(一般市民の年齢階級別)

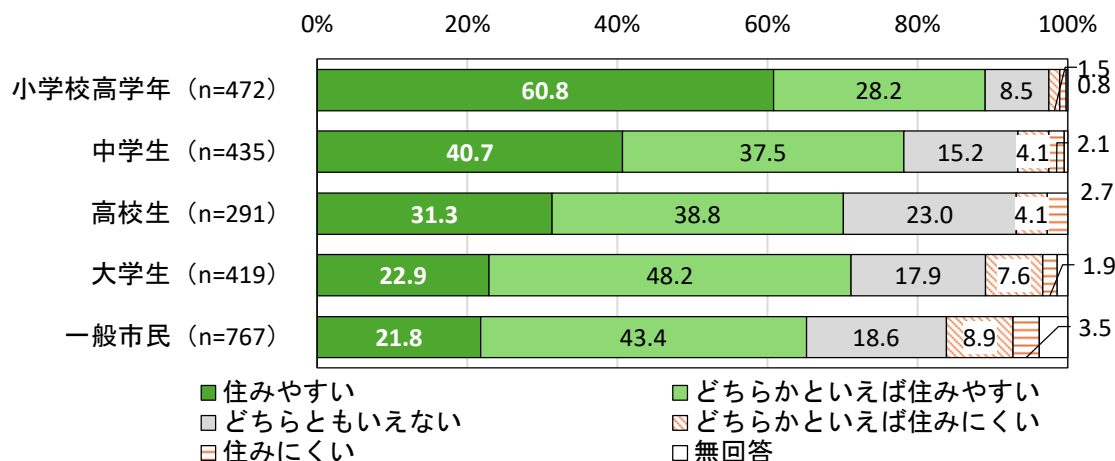


2. 名寄市の住みやすさ

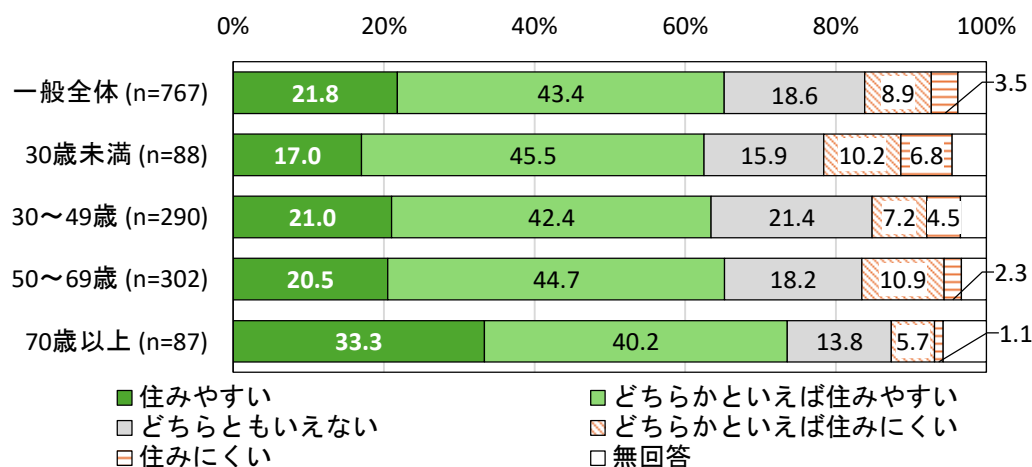
名寄市の住みやすさを調査対象者別でみると、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合計は、最も高い小学校高学年が89.0%で年齢が高くなるにつれてその割合は低くなっています。

住みやすいと感じている人の割合が最も多い一般市民を年齢階級別でみると、30歳未満は「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」の合計が17.0%で、ほかの年齢階級と比べて高い状況です。

■名寄市の住みやすさ(調査対象者別)



■名寄市の住みやすさ(一般市民の年齢階級別)

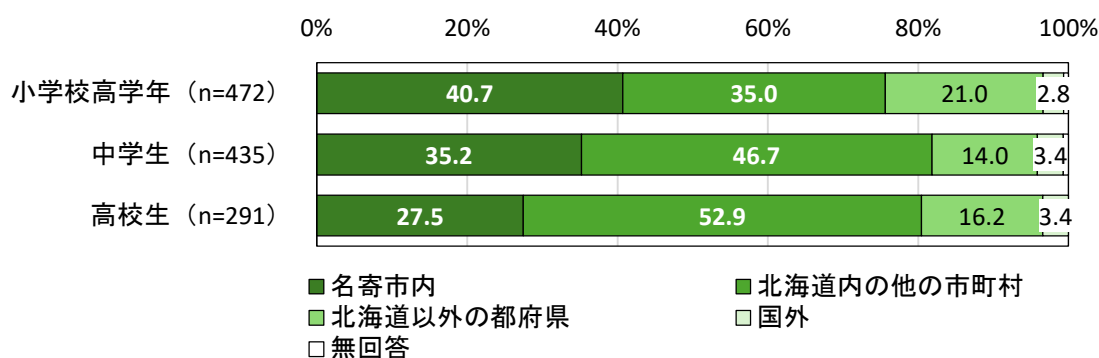


3. 名寄市への定住意向

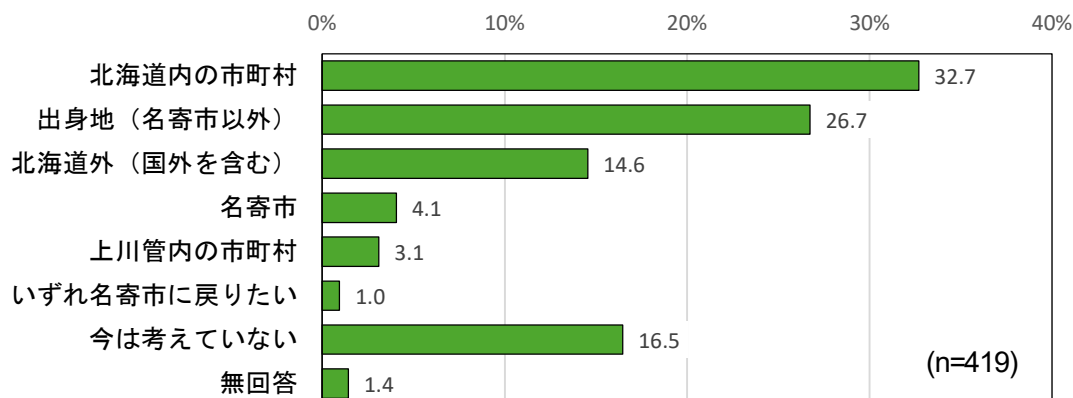
30歳頃に暮らしたい場所を小学校高学年、中学生及び高校生にたずねたところ、小学校高学年は「名寄市内」が40.7%で最も高くなっていますが、高校生は「北海道内の他の市町村」が52.9%と半数を超えています。

大学生が卒業後に住みたい場所は「北海道内の市町村」(32.7%)、「出身地(名寄市以外)」(26.7%)が上位回答となっており、「名寄市」は4.1%と低い状況にあるほか、一般市民で名寄市に定住意向のある人の割合は30歳未満が30.7%にとどまっています。

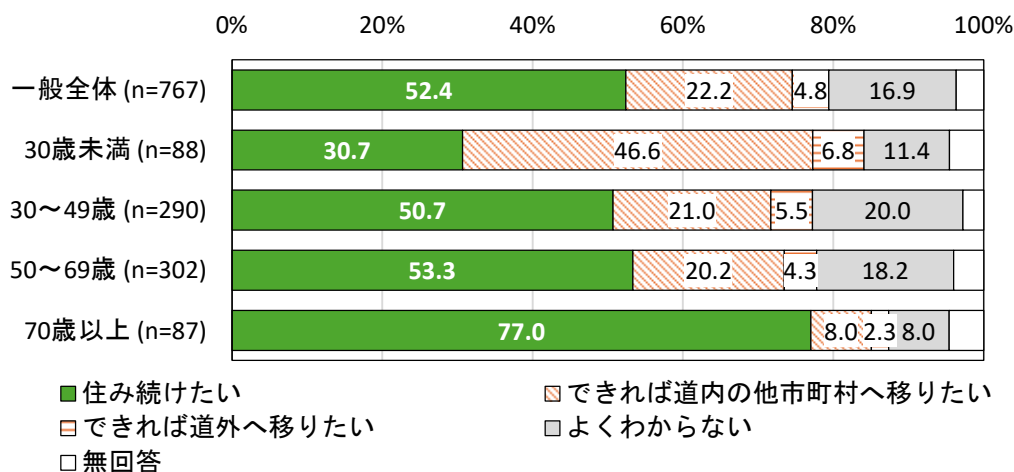
■30歳頃に暮らしたい場所(小学校高学年～高校生)



■大学卒業後に住みたい場所(大学生)



■名寄市への定住意向(一般市民)



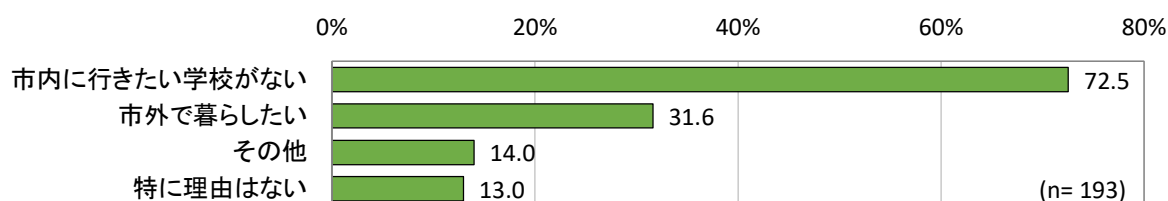
4. 市外への転出理由

高校卒業後に市外への進学を希望する高校生にその理由をたずねたところ、「市内に行きたい学校がない」が72.5%を占めており、次いで「市外で暮らしたい」が31.6%が続いています。

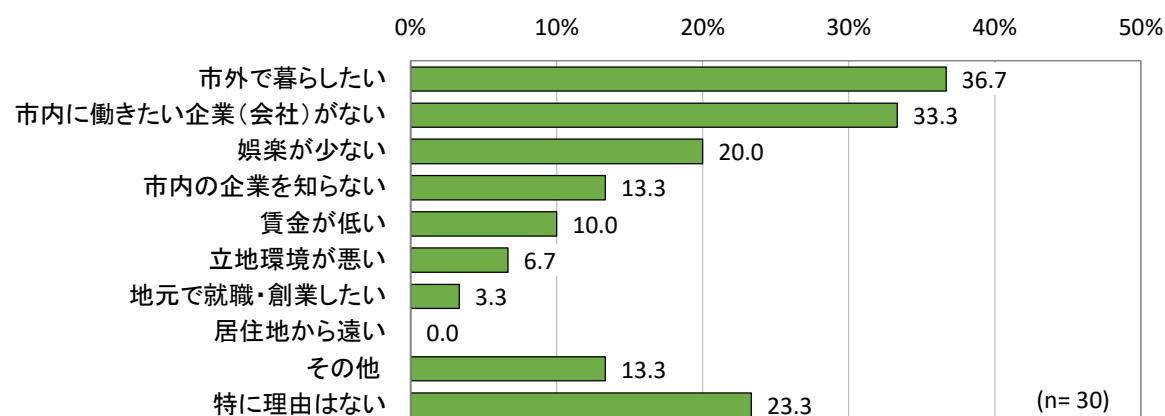
高校卒業後に市外への就職を希望する理由は、「市外で暮らしたい」(36.7%)、「市内に働きたい企業(会社)がない」(33.3%)が上位回答になっています。

大学卒業後に市外への就職・進学を希望する大学生にその理由をたずねたところ、「交通が不便」が42.4%で最も多く、次いで「魅力あるイベントや遊ぶ場が少ない」(36.5%)、「地元に戻りたい」(35.6%)が続いている状況です。

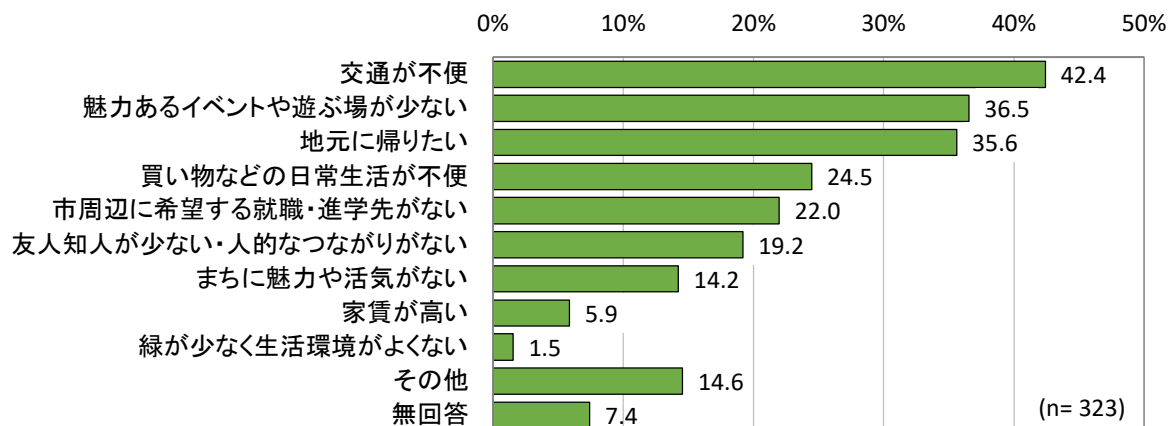
■市外に進学する理由(高校生)



■市外に就職する理由(高校生)



■市外への就職・進学を希望する理由(大学生)

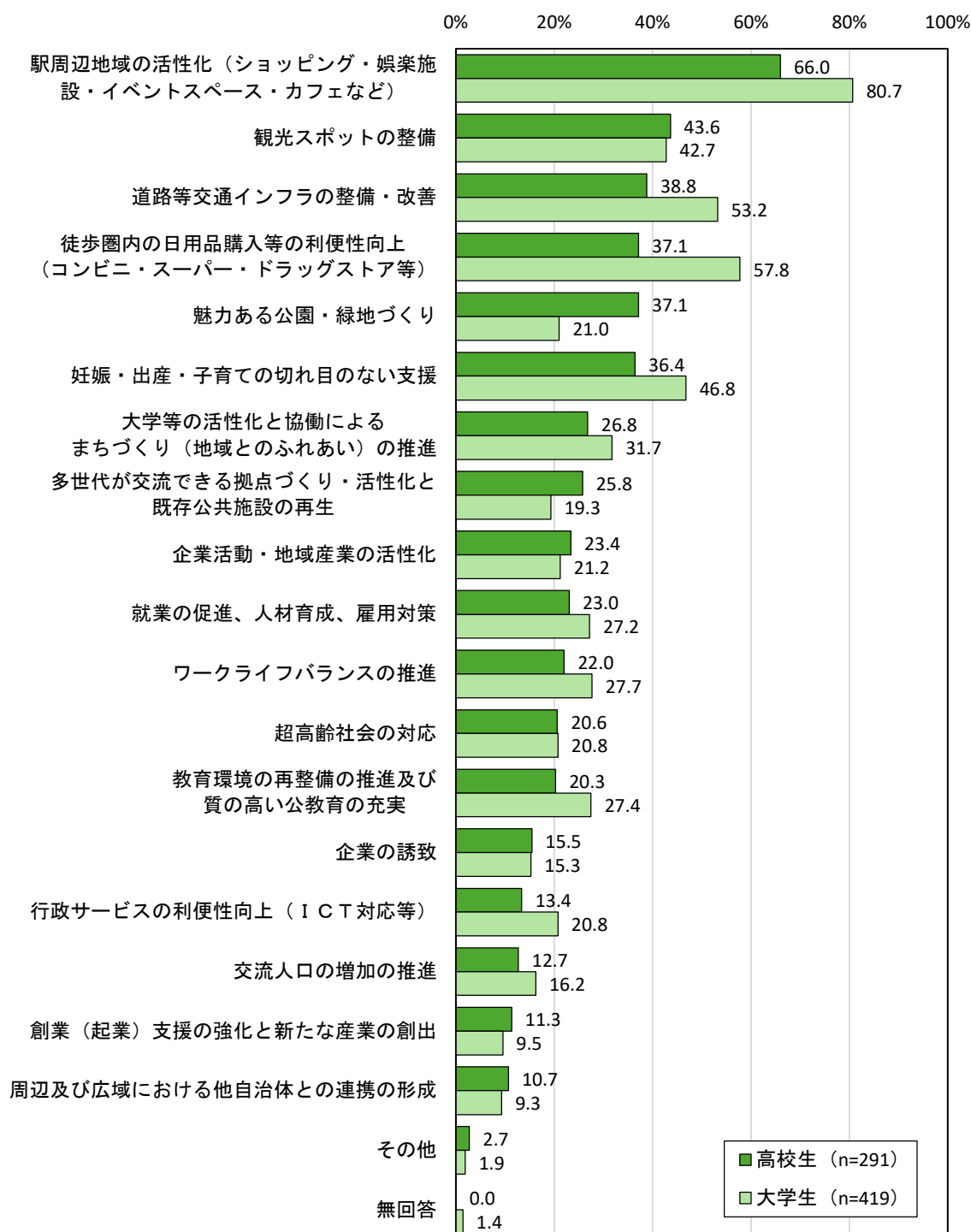


5. 若い世代の移住・定住促進のために必要なこと

高校生及び大学生を対象に、若い世代の移住・定住促進のために必要なことをたずねたところ、高校生、大学生ともに「駅周辺地域の活性化(ショッピング・娯楽施設・イベントスペース・カフェなど)」が突出して多く、特に大学生はその割合が80.7%を占めている状況です。

ほかに「観光スポットの整備」及び「道路等交通インフラの整備・改善」が高校生、大学生ともに上位回答となっているほか、大学生は「徒歩圏内の日用品購入等の利便性向上(コンビニ・スーパー・ドラッグストア等)」と「妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援」の割合も高くなっています。

■若い世代の移住・定住促進のために必要なこと(高校生／大学生)



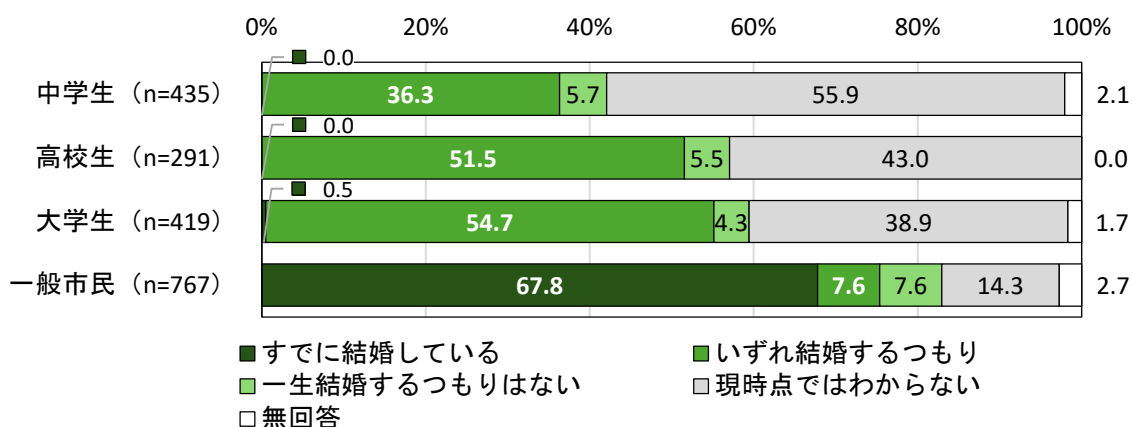
6. 結婚と出産・子育て

(1)結婚に対する考え方

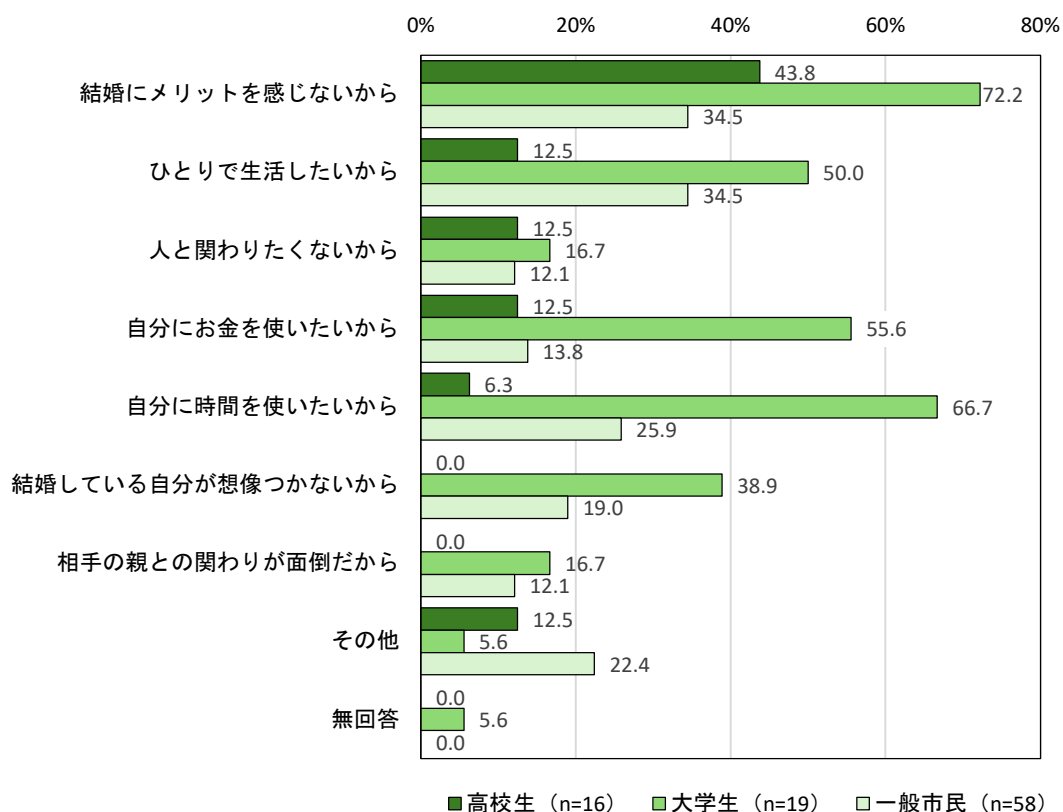
今後の結婚に対する考え方をたずねたところ、「一生結婚するつもりはない」はいずれの年代も10%を下回っており、中学生から大学生は年齢が高くなるにつれて「いずれ結婚するつもり」は多く、「現時点ではわからない」は少なくなっています。

「一生結婚するつもりはない」と回答した人の理由は、「結婚にメリットを感じないから」「ひとりで生活したいから」が上位回答となっていますが、大学生は「自分にお金を使いたいから」「自分に時間を使いたいから」の割合が高くなっています。

■結婚に対する考え方(中学生～一般)



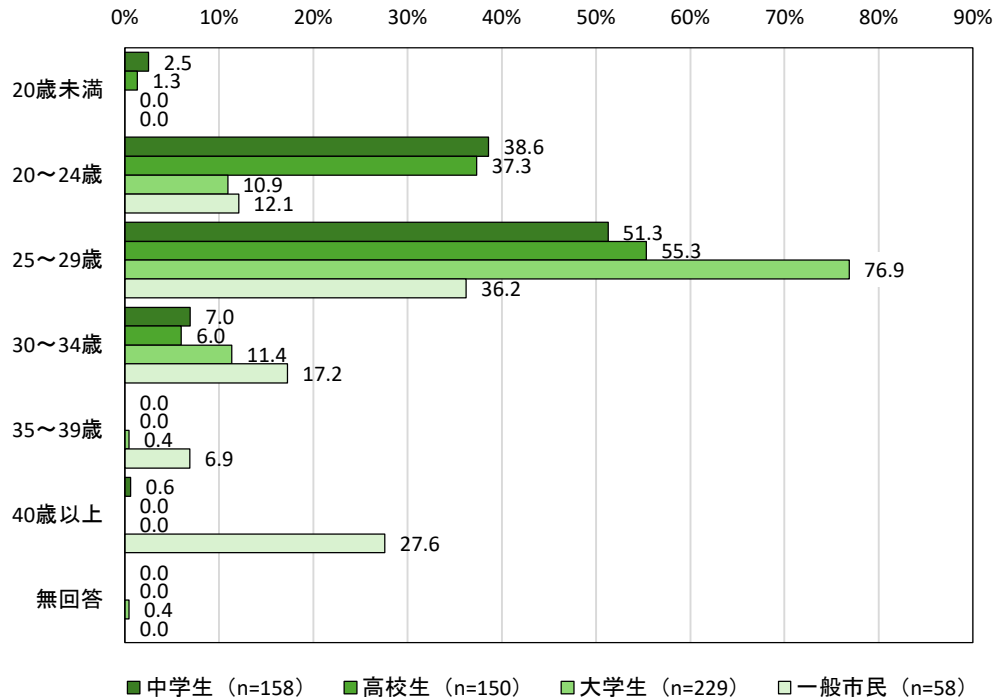
■一生結婚するつもりがない理由(高校生～一般)



(2)結婚したい年齢

いずれ結婚するつもりのある人に結婚したい年齢をたずねたところ、いずれの年齢も「25～29歳」が多く、特に大学生はその割合が76.9%と高くなっています。

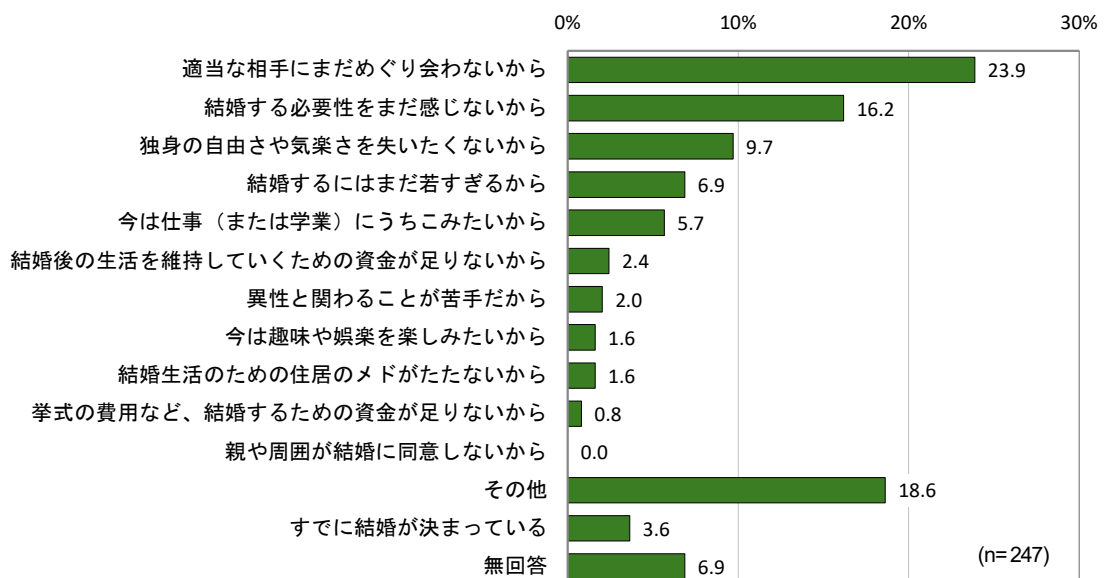
■結婚したい年齢(中学生～一般市民)



(3)現在独身の理由

現在独身の一般市民を対象に、独身の理由をたずねたところ、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が23.9%で最も多く、次いで「結婚する必要性をまだ感じないから」が16.2%で続いています。

■現在独身の理由(一般市民)

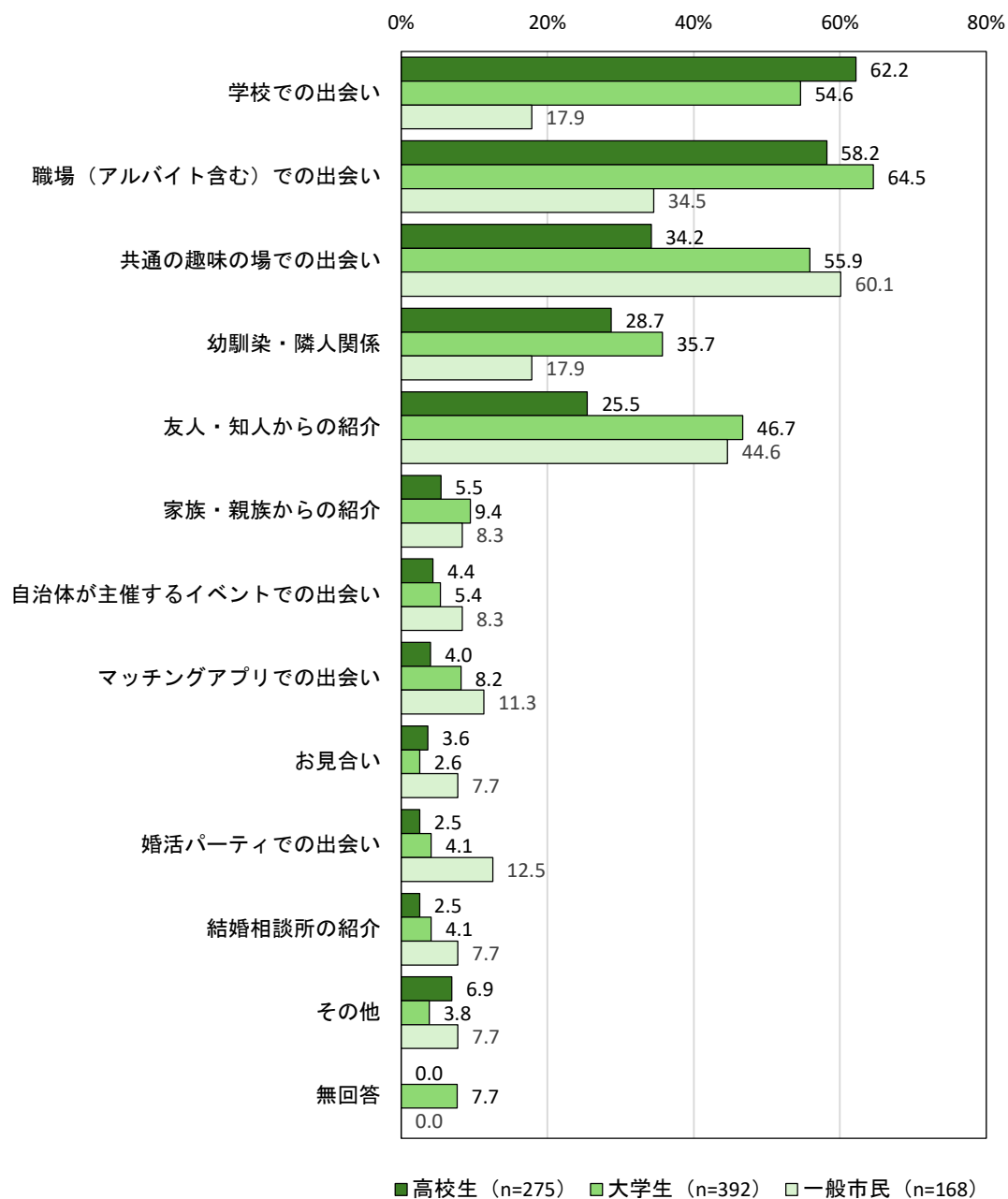


(4)結婚相手との理想の出会い

結婚相手との理想の出会いをたずねたところ、「学校での出会い」「職場(アルバイト含む)での出会い」「共通の趣味の場での出会い」が上位回答となっています。

また、大学生及び一般市民は「友人・知人からの紹介」の割合も高い状況です。

■結婚相手との理想の出会い(高校生～一般市民)

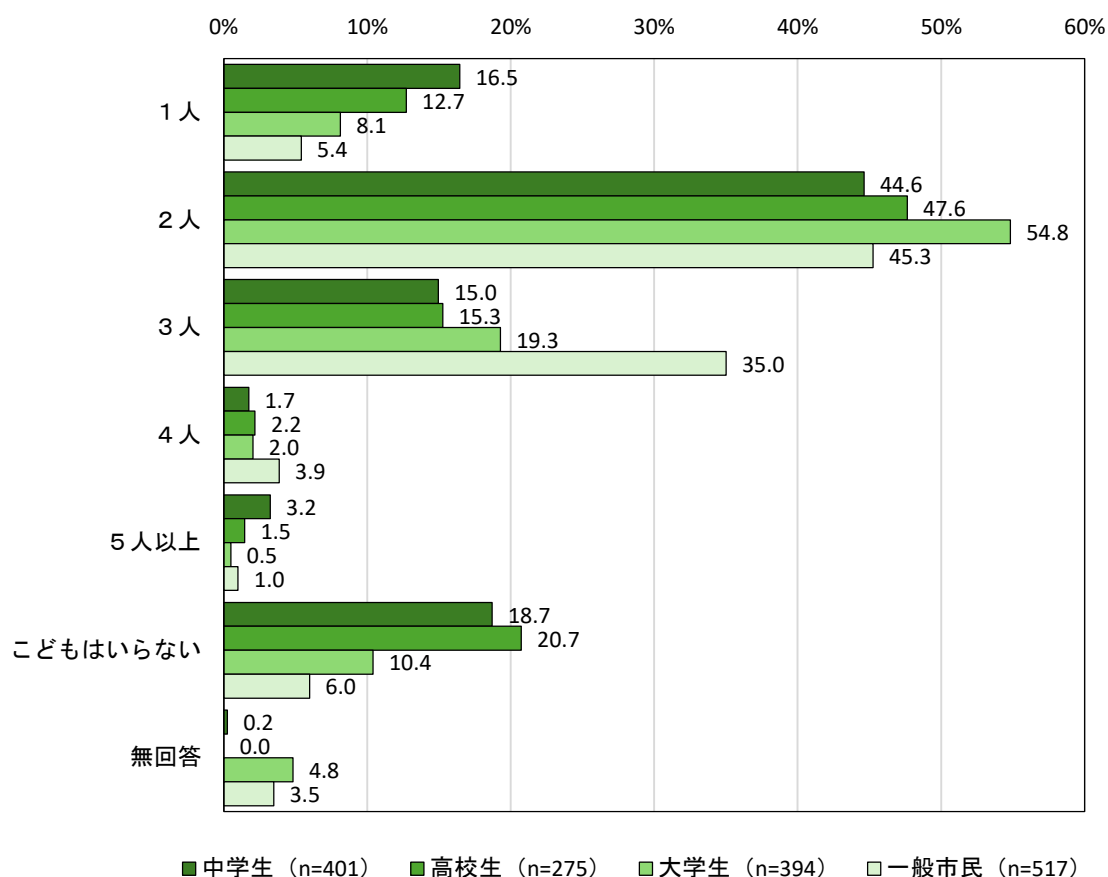


(5)希望するこどもの人数

将来に希望するこどもの人数はいずれの年代も「2人」が50%前後で最も多く、年齢が高くなるにつれて「1人」の割合が低く、「3人」の割合は高くなっています。

一方、「こどもはいらない」と回答した人は中学生及び高校生が20%前後となっているものの、その割合は大学生及び一般市民では低くなっています。

■希望するこどもの人数(中学生～一般)

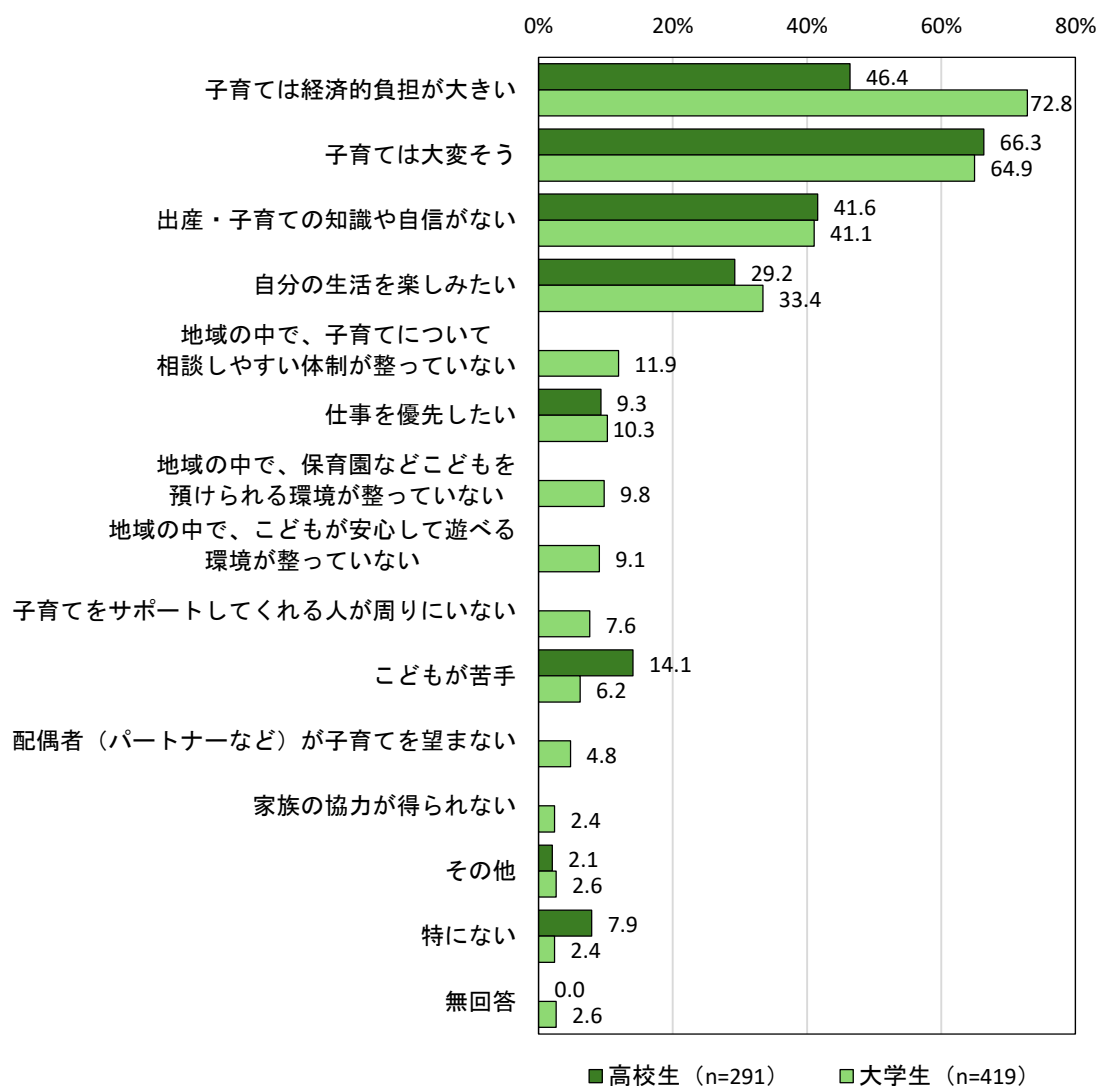


(6)子どもをもつことへの不安や懸念

高校生及び大学生を対象に、今後子どもをもつことへの不安や懸念をたずねたところ、「子育ては経済的負担が大きい」「子育ては大変そう」「出産・子育ての知識や自信がない」が上位回答となっています。

その中でも、「子育ては大変そう」は高校生、大学生ともに65%前後と高く、加えて大学生は「子育ては経済的負担が大きい」の割合が72.8%と高い状況です。

■子どもをもつことへの不安や懸念(高校生／大学生)



※高校生向けの調査は選択肢を限定しており、選択肢がない箇所は回答の割合を表示していません。

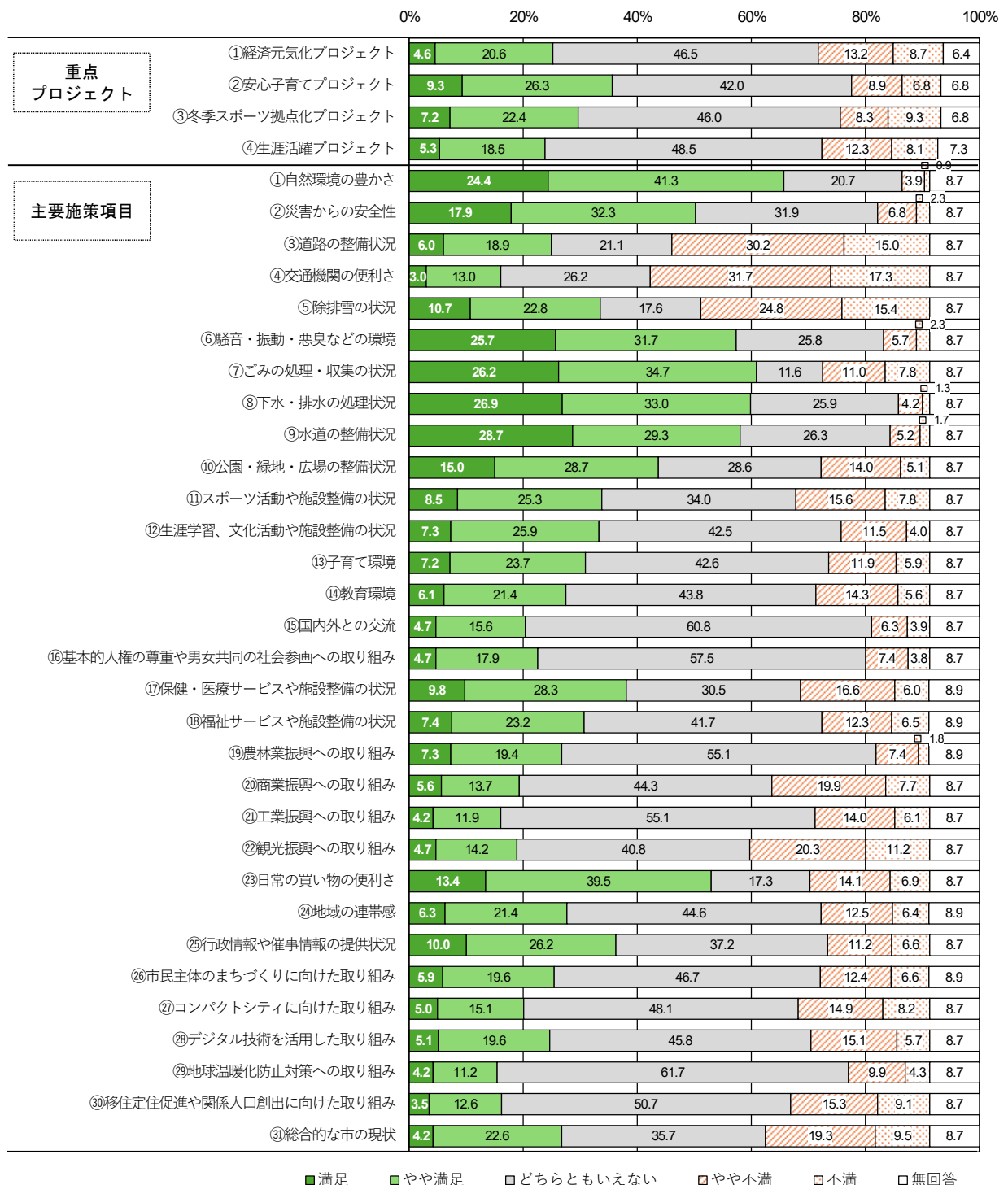
7. 施策項目別の満足度と重要度

(1) 現状の施策項目における満足度

主要施策項目で「満足」「やや満足」の合計割合をみると、「①自然環境の豊かさ」が65.7%で最も高く、ほかに「②災害からの安全性」や「⑥騒音・振動・悪臭などの環境」～「⑨水道の整備状況」、「③日常の買い物の便利さ」は50%を超えています。

一方、「やや不満」「不満」の合計が高いのは、「③道路の整備状況」「④交通機関の便利さ」「⑤除排雪の状況」となっており、いずれもその割合は40%を超えています。

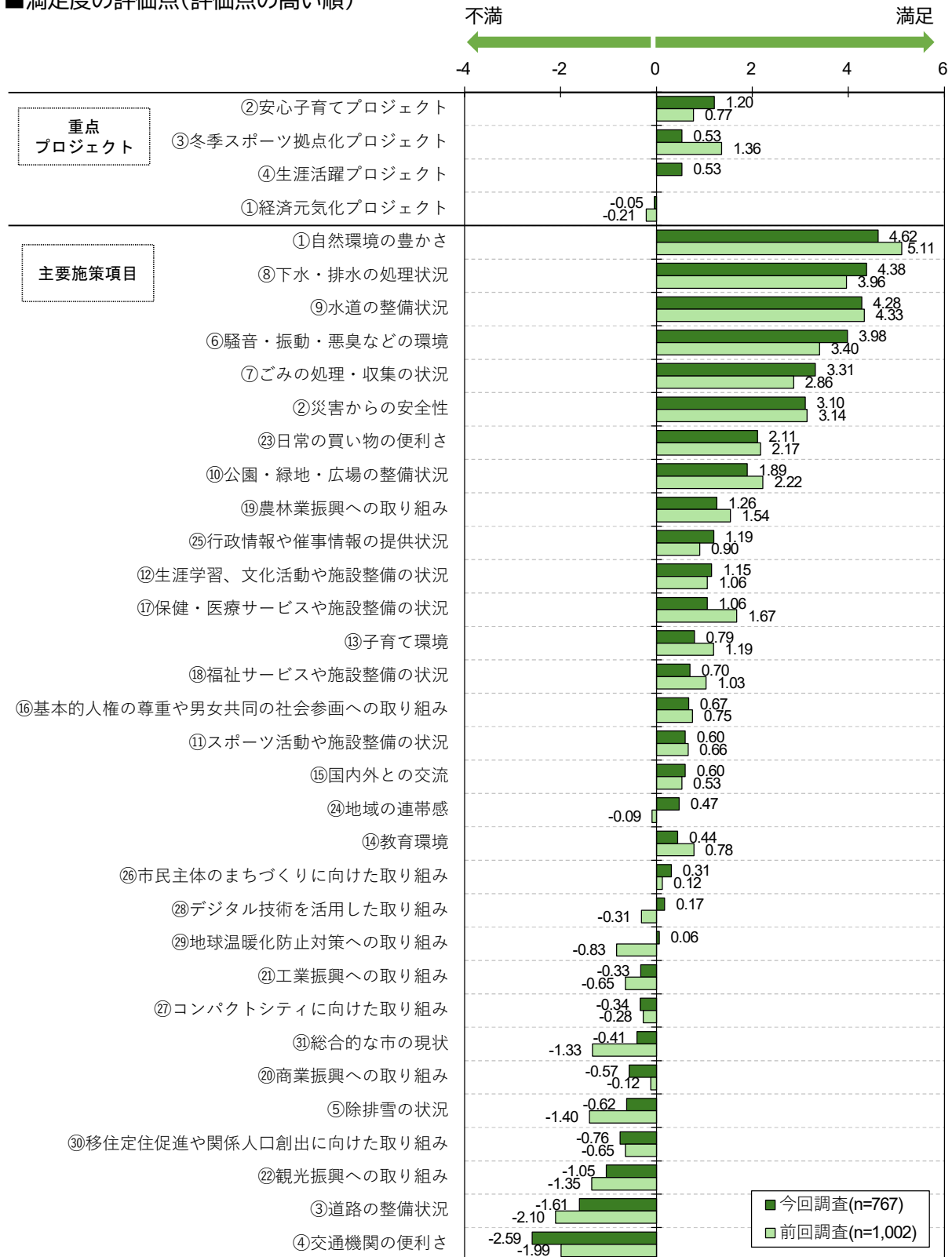
■現状の施策項目における満足度



(2)満足度の評価点

満足度の回答結果から評価点を算出し、評価点の高い順(満足度が高い順)に並べた結果は下記のとおりです。主要施策項目の中では「①自然環境の豊かさ」や「⑧下水・排水の処理状況」の満足度が高い一方、「③道路の整備状況」「④交通機関の便利さ」は満足度が低くなっています。

■満足度の評価点(評価点の高い順)



※評価点は「満足」を10点、「やや満足」を5点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-5点、「不満」を-10点とし、合計得点を回答数で割って計算。

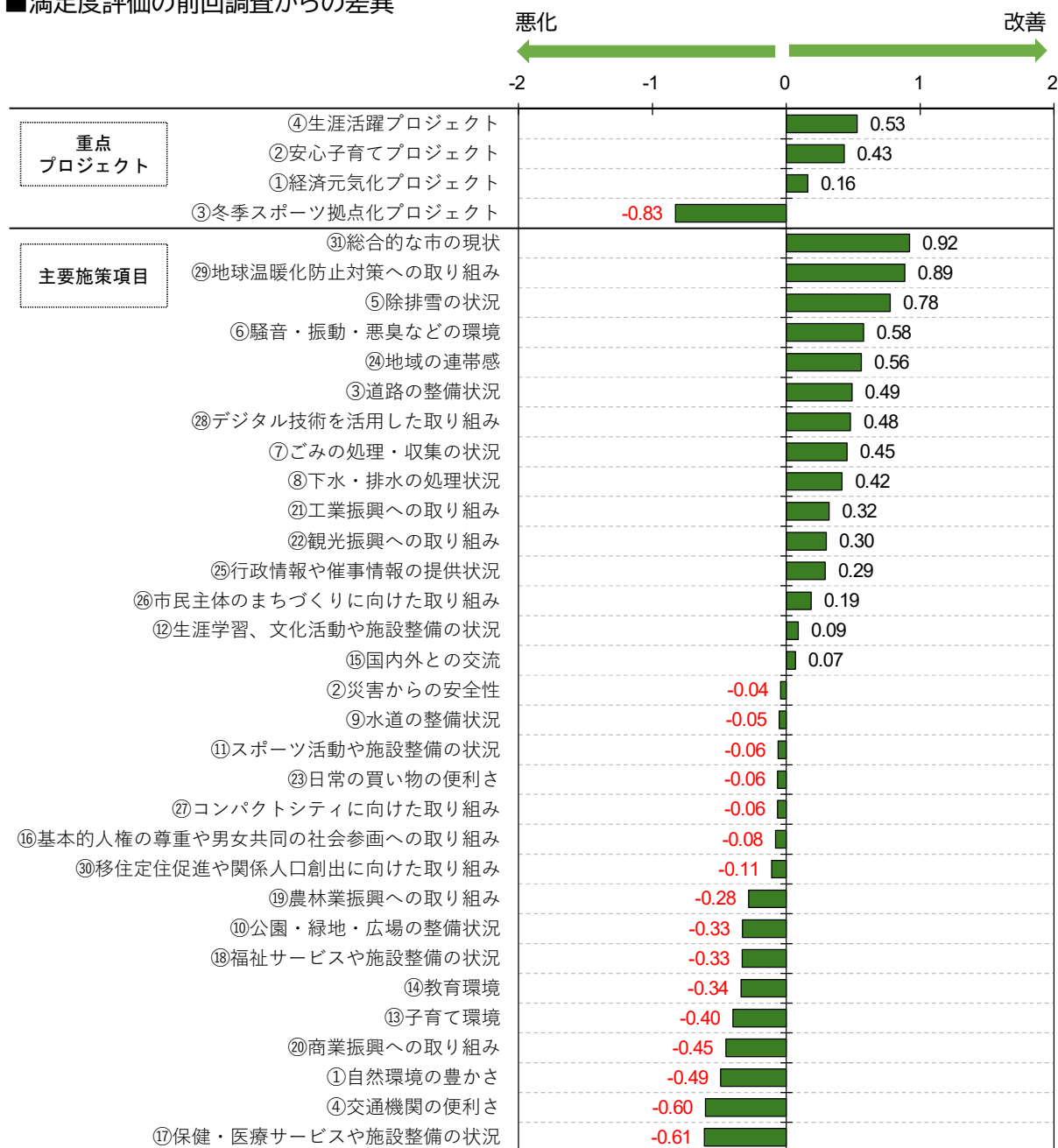
(3)満足度評価の前回調査との比較

満足度の評価点と前回調査(令和3年度に実施)の差異をグラフ化した結果は以下のとおりです。

今回新たに設定した「④生涯活躍プロジェクト」を除くと、重点プロジェクトの中では、「②安心子育てプロジェクト」は0.43ポイント改善されている一方、コロナ禍の影響を背景に「③冬季スポーツ拠点化プロジェクト」は0.83ポイント悪化しています。

主要施策項目の中では、「③総合的な市の現状」「②地球温暖化防止対策への取り組み」「⑤除排雪の状況」で0.7ポイント以上の改善がみられますが、「④交通機関の便利さ」「①⑦保健・医療サービスや施設整備の状況」は0.6ポイント以上悪化している状況です。

■満足度評価の前回調査からの差異



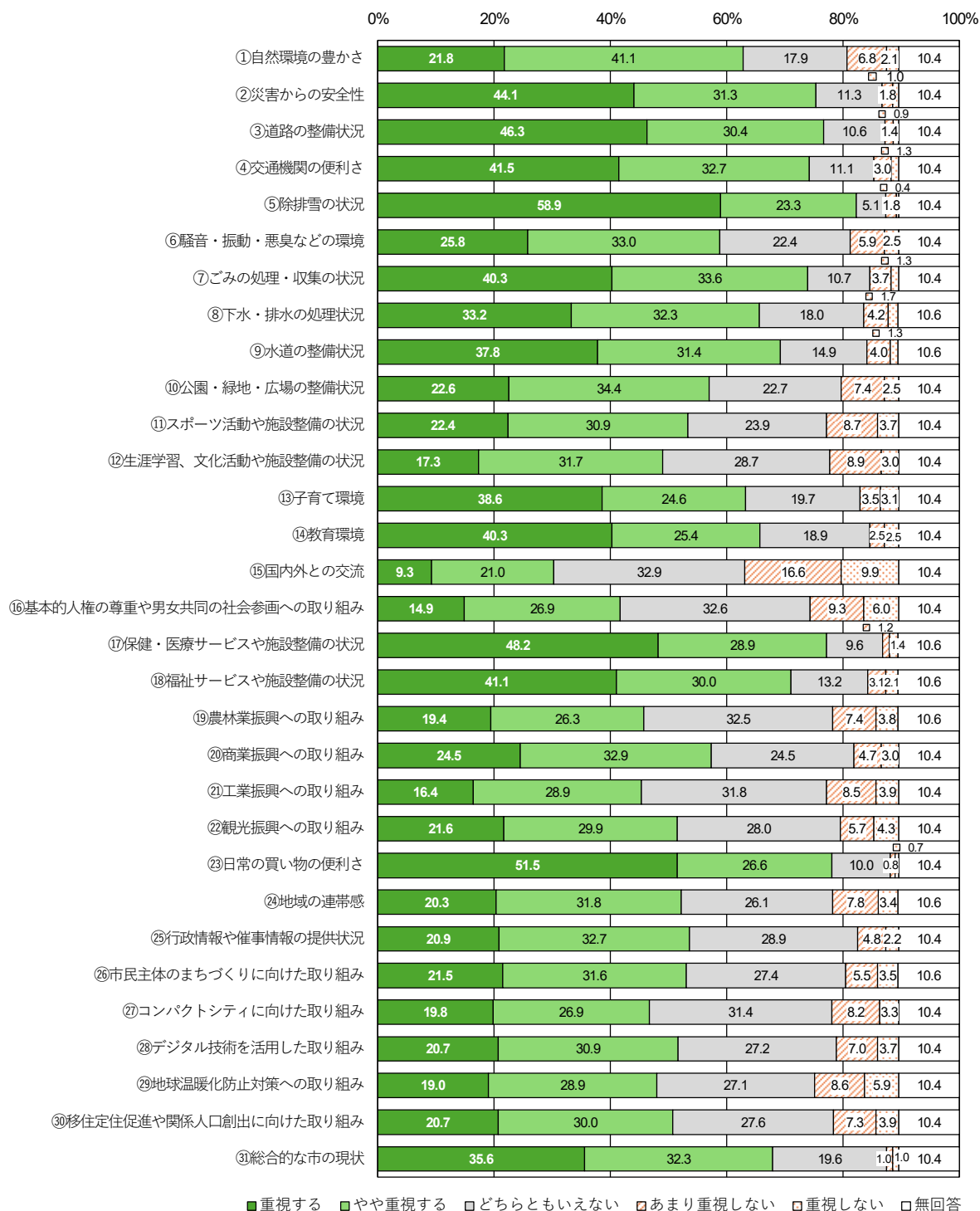
※前回調査時点では、総合計画の重点プロジェクトとして「④生涯活躍プロジェクト」を設定していなかったため、満足度調査を実施していない。

(4)今後の施策項目における重要度

主要施策項目で「重視する」「やや重視する」の合計割合をみると、「⑤除排雪の状況」が82.2%で最も高く、ほかに「③日常の買い物の便利さ」や「⑪保健・医療サービスや施設整備の状況」など多くの施策項目で70%を超えています。

一方、「あまり重視しない」「重視しない」の合計が高いのは、「⑮国内外との交流」が26.5%で突出している状況です。

■今後の施策項目における重要度

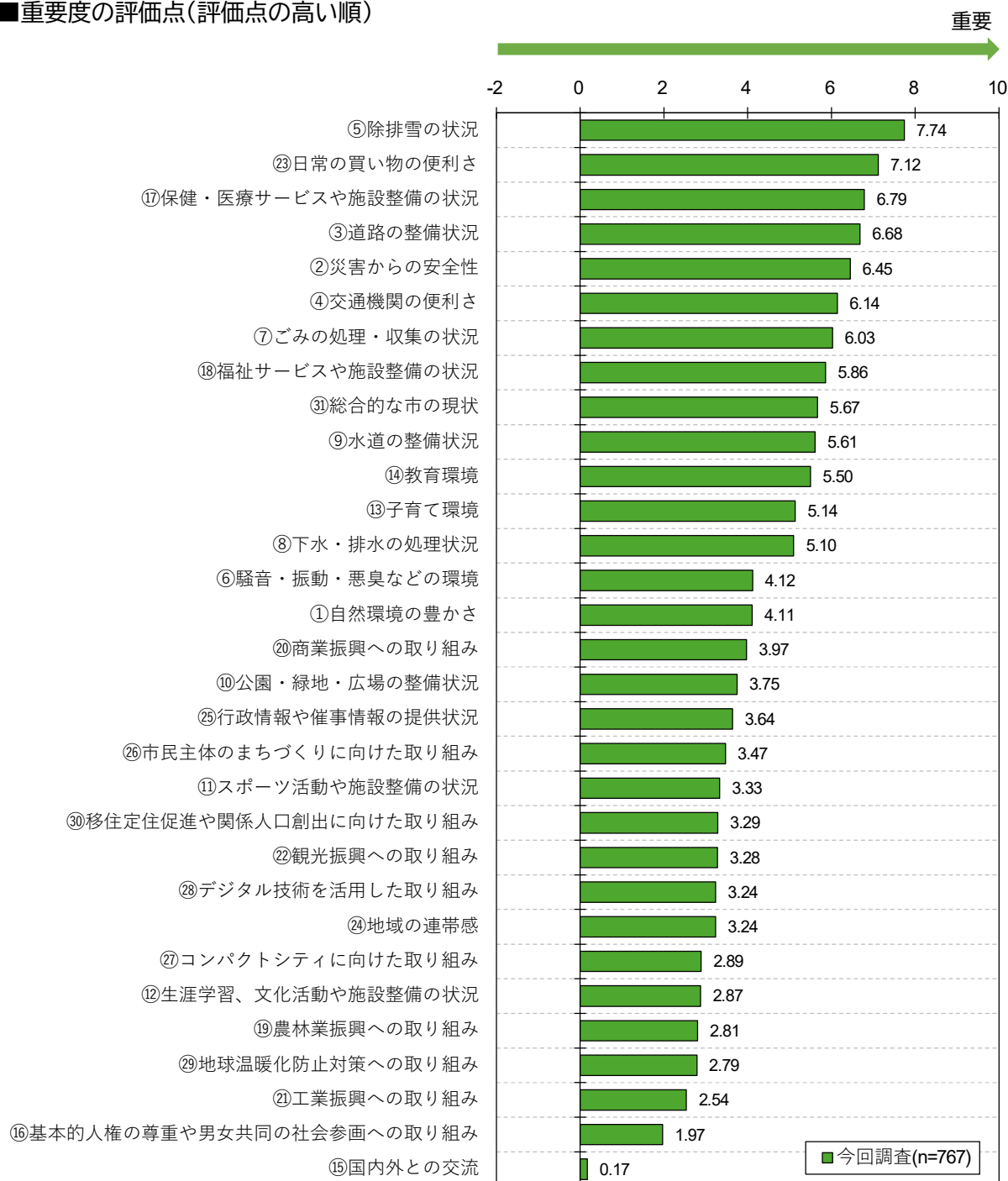


(5)重要度の評価点

重要度の回答から評価点を算出し、評価点の高い順(重要度が高い順)に並べた結果は下記のとおりです。

主要施策項目の中では「⑤除排雪の状況」及び「③日常の買い物の便利さ」は重要度評価が7点を超えていますが、「⑮国内外との交流」は0.17点と低い状況です。

■重要度の評価点(評価点の高い順)



※評価点は「重視する」を10点、「やや重視する」を5点、「どちらともいえない」を0点、「あまり重視しない」を-5点、「重視しない」を-10点とし、合計得点を回答数で割って計算。

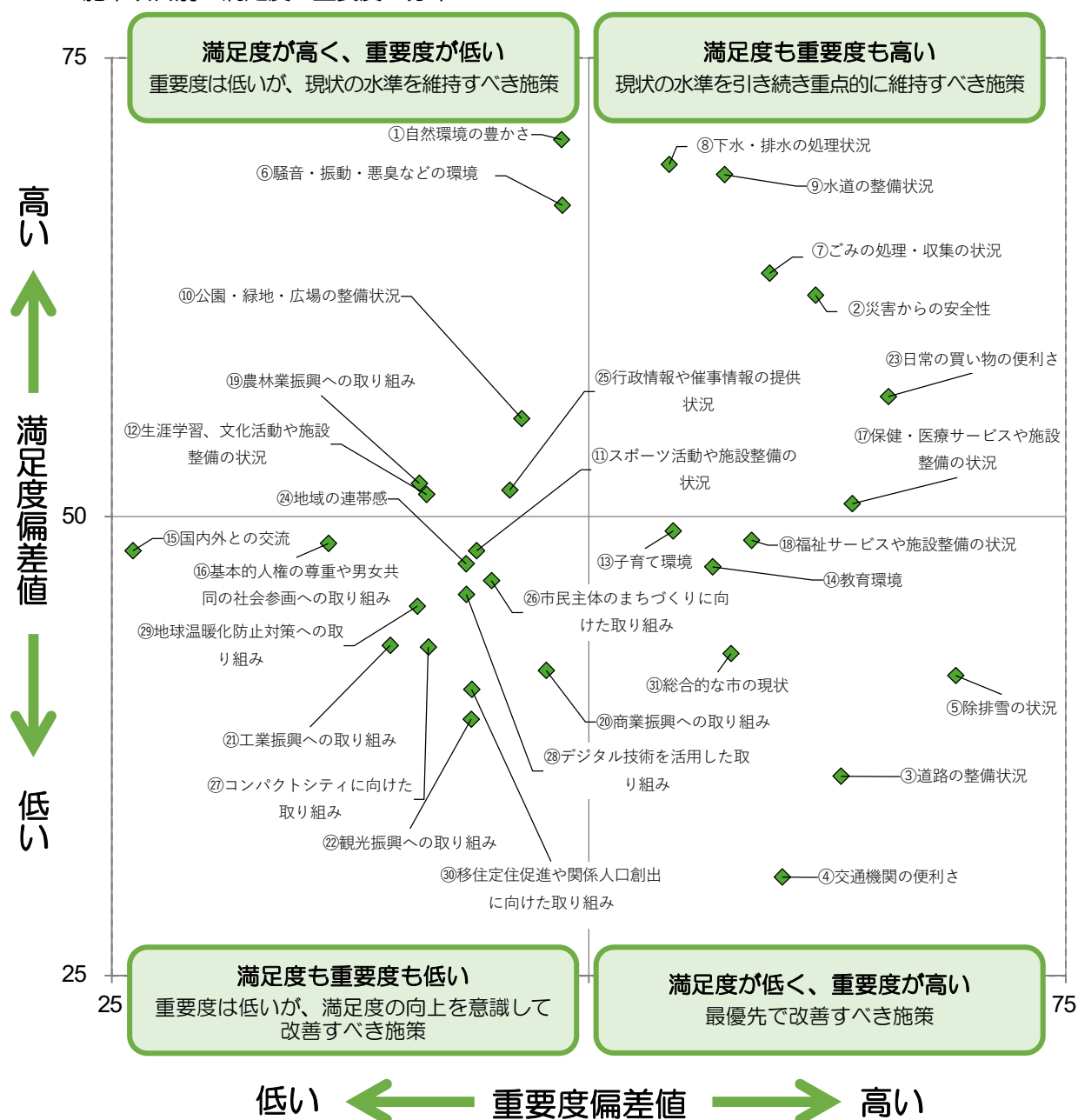
(6)満足度評価点と重要度評価点の分布

市が進める施策項目に関して、「満足度評価」と「重要度評価」の集計結果に基づく分析を行いました。

下図の右下「満足度が低く、重要度が高い」の領域に含まれる施策は、ほかの施策と比べて優先した対応が望まれ、右下に位置付けられるほど改善の優先度が高い項目と考えられます。

本市の施策項目の中では「④交通機関の便利さ」「③道路の整備状況」「⑤除排雪の状況」は改善の優先度が非常に高いと考えられます。

■施策項目別の満足度と重要度の分布

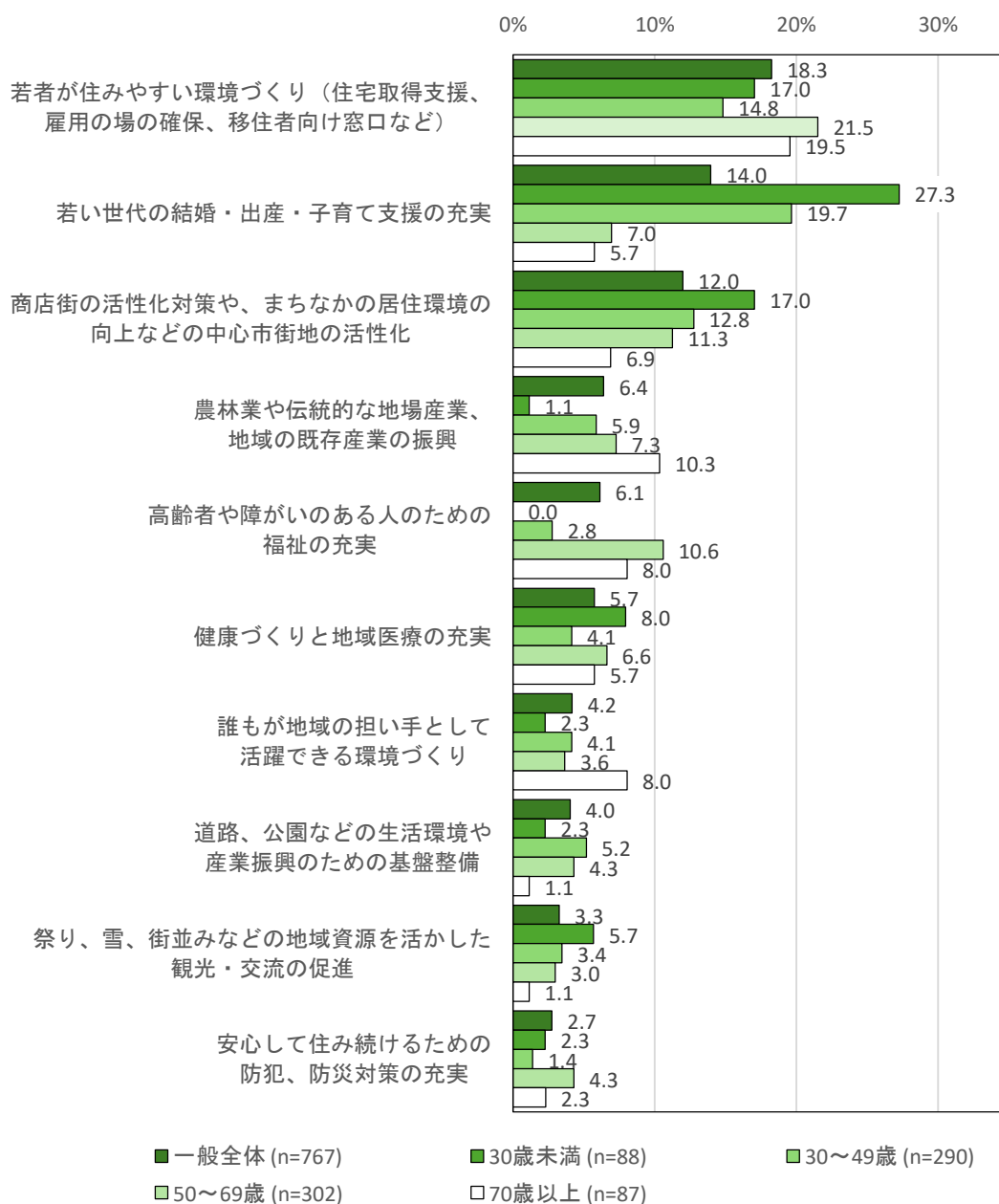


8. 今後力を注ぐべき取組

まちづくりを進めるために今後力を注ぐべき取組を全体でみると、「若者が住みやすい環境づくり（住宅取得支援、雇用の場の確保、移住者向け窓口など）」が18.3%で最も多く、次いで「若い世代の結婚・出産・子育て支援の充実」（14.0%）、「商店街の活性化対策や、まちなかの居住環境の向上などの中心市街地の活性化」（12.0%）が続いています。

年齢階級別でも、「若者が住みやすい環境づくり（住宅取得支援、雇用の場の確保、移住者向け窓口など）」の割合は高くなっていますが、30歳未満は「若い世代の結婚・出産・子育て支援の充実」が27.3%で突出しています。

■今後力を注ぐべき取組（上位10項目の抜粋／一般市民）



III Well-Beingアンケート調査結果

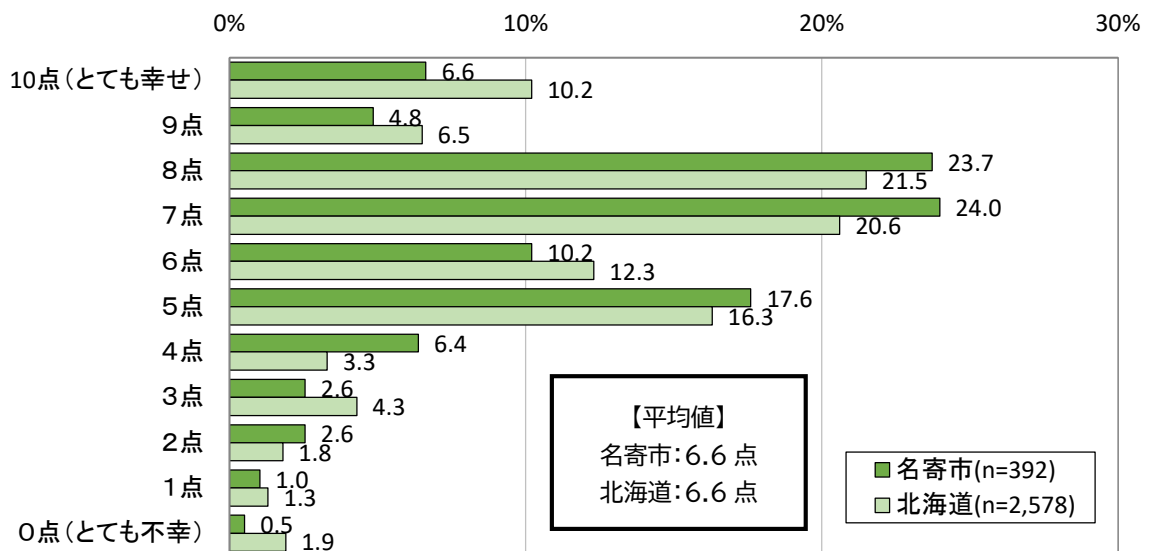
1. 幸福度と生活満足度

本市における現在の幸福度は、「8点」(23.7%)、「7点」(24.0%)、「5点」(17.6%)の割合が高く、平均値は6.6点となっています。

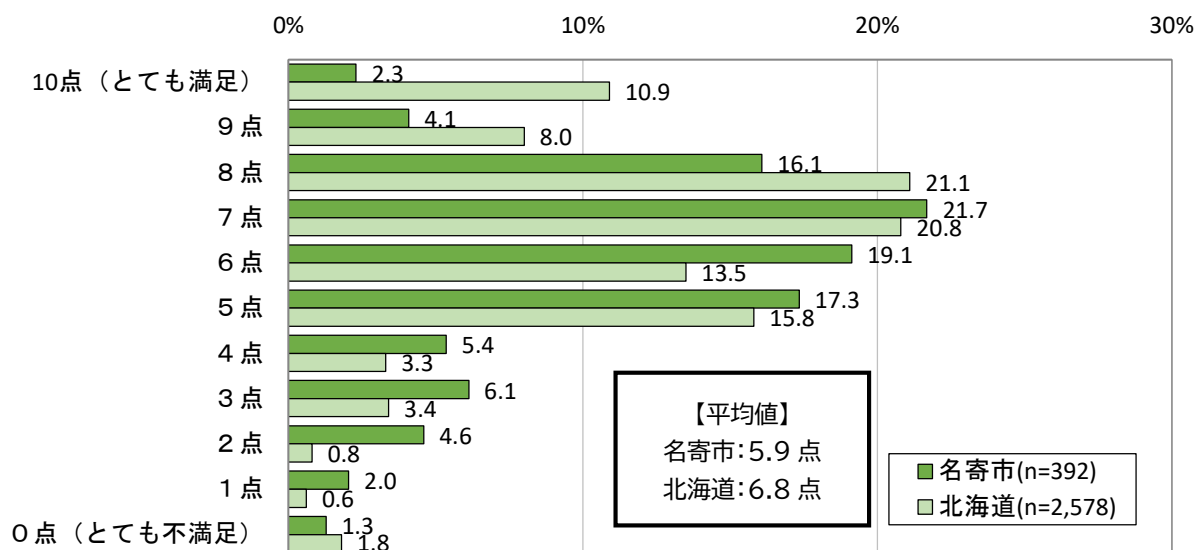
北海道の集計結果と比較すると、幸福度の平均値には差異がありませんが、点数ごとの回答割合は、本市は「10点」が3.6ポイント低く、「7点」が3.4ポイント高くなっています。

また、本市における生活満足度は、「7点」(21.7%)、「6点」(19.1%)、「5点」(17.3%)、「8点」(16.1%)の順で割合が高く、平均値は5.9点となっており、北海道の集計結果と比較すると、本市の平均値は北海道の6.8点を0.9点下回っているほか、「10点(とても満足)」が8.6ポイント下回っている状況です。

■現在の幸福度の分布



■生活満足度の分布



出典:「2025年版(令和7年度版)WELL-BEING個別調査」(デジタル庁)

2. 因子別の状況

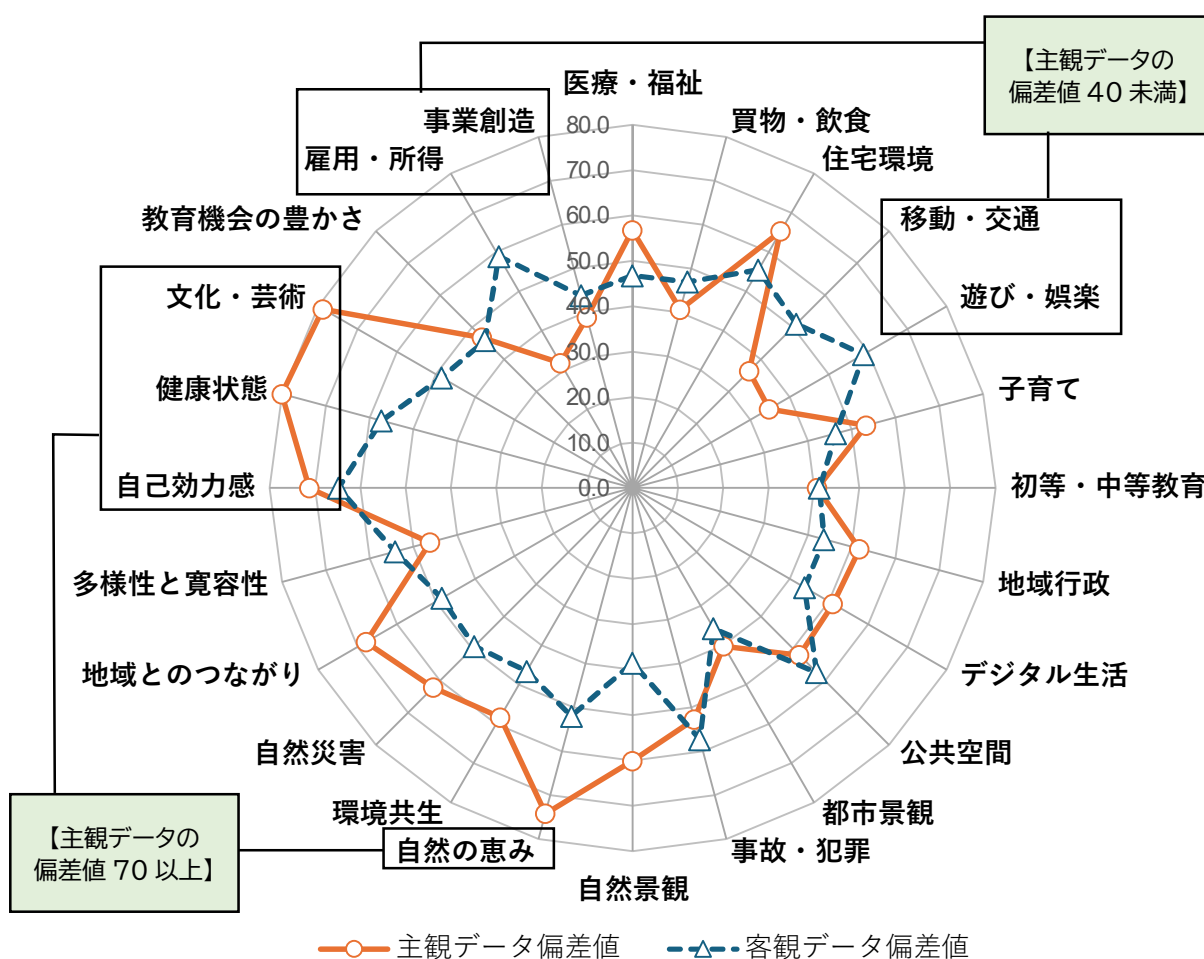
Well-Being指標の主観データにおいて、3つの因子群(「生活環境」「地域の人間関係」「自分らしい生き方」)を構成する24因子に関して、全国の集計データから偏差値として算出した結果を客観データ(各種オープンデータを基にした客観的なデータ)と比較したグラフは下図のとおりです。

主観データの偏差値が70以上の因子は、「自然の恵み」「自己効力感」「健康状態」「文化・芸術」の4つ、偏差値が60を超えている因子は、「住宅環境」「自然景観」「自然災害」「地域とのつながり」の4つで、これらは本市の強みと捉えられます。

主観データの偏差値が40を下回っている因子は、「移動・交通」「遊び・娯楽」「雇用・所得」「事業創造」の4つで、これらは本市の弱みと想定されます。

一方、客観データの偏差値をみると、60以上の因子は「自己効力感」、40未満の因子は「都市景観」「自然景観」となっています。

■因子別の状況



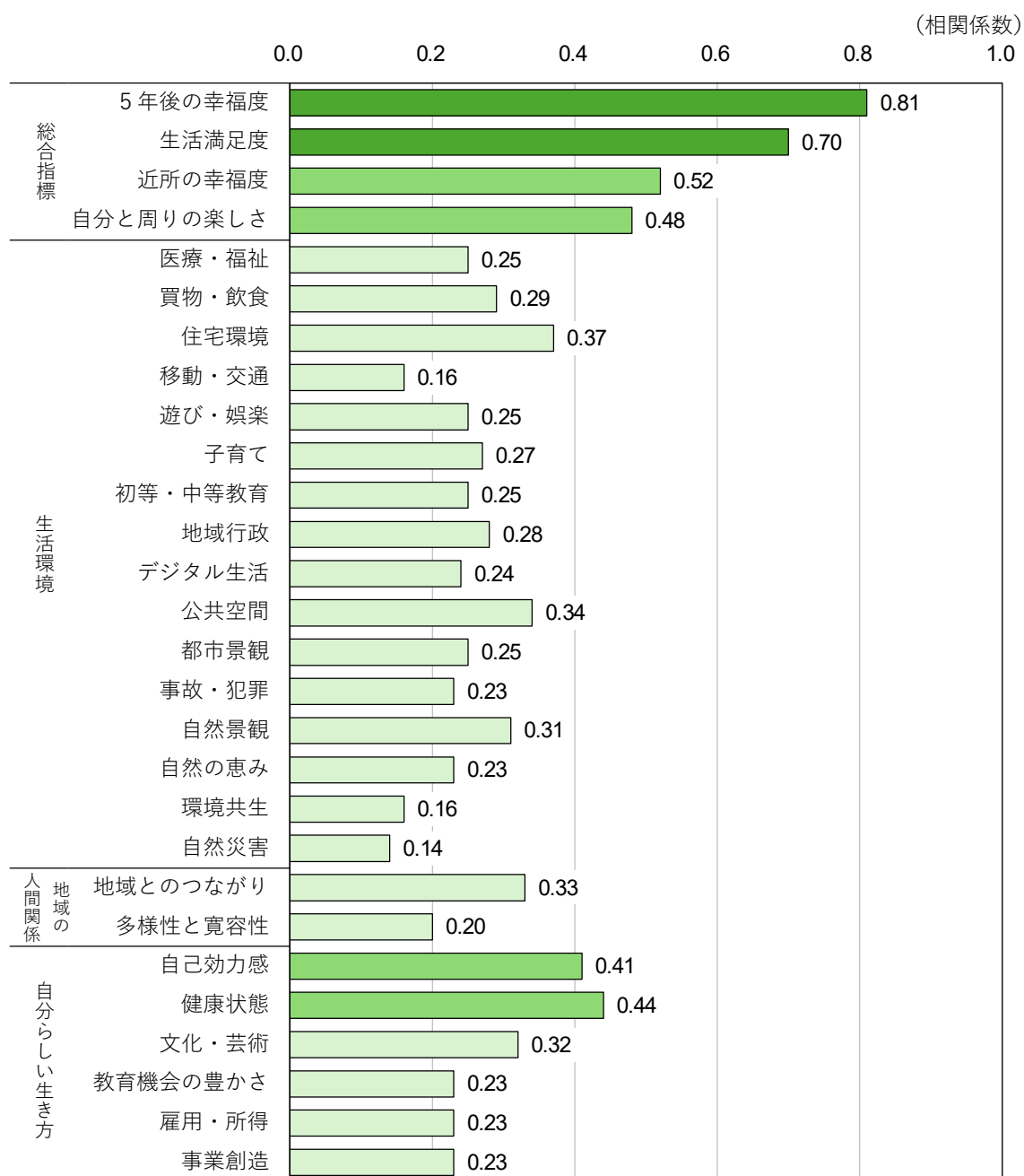
出典:「2025 年版(令和7年度版)Well-Being 個別調査」(デジタル庁)

3. 幸福度と因子の相関

「現在の幸福度」と他の総合指標との相関分析を行ったところ、「5年後の幸福度」(0.81)及び「生活満足度」(0.70)には非常に強い相関がみられるほか、「近所の幸福度」(0.52)、「自分と周りの楽しさ」(0.48)にも強い相関がみられました。

「現在の幸福度」と各因子との相関関係をみると、「自己効力感」(0.41)及び「健康状態」(0.44)に強い相関がみられますが、「移動・交通」(0.16)、「環境共生」(0.16)及び「自然災害」(0.14)は相関が弱いと考えられます。

■幸福度と因子の相関係数



※相関係数:0.7 以上は非常に強い相関、0.4 以上 0.7 未満は強い相関、0.4 未満は弱い相関
出典:「2025 年版(令和7年度版)Well-Being 個別調査」(デジタル庁)

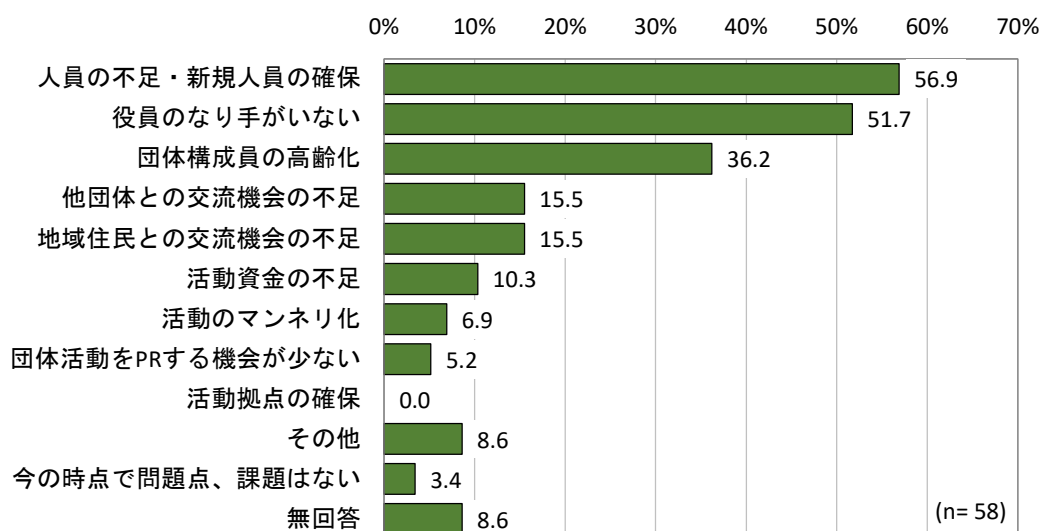
IV 関係団体・事業者アンケート調査結果

1. 現状の課題

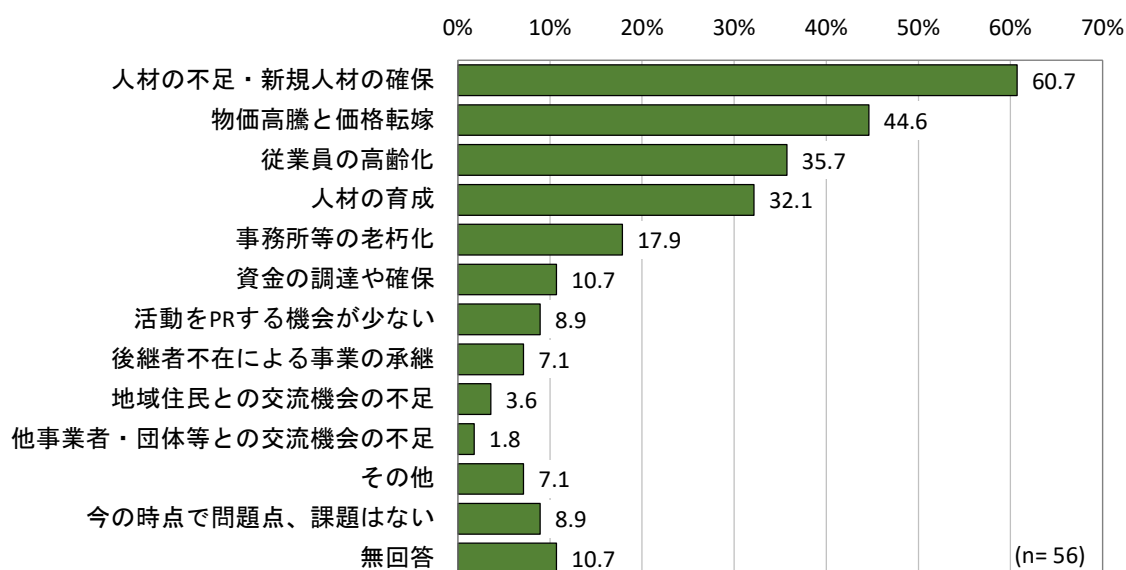
関係団体の活動の中で感じている問題点や課題は、「人員の不足・新規人員の確保」が56.9%で最も多く、次いで「役員のなり手がいない」(51.7%)、「団体構成員の高齢化」(36.2%)が続いています。

事業者の課題も関係団体と同様に「人材の不足・新規人材の確保」が60.7%で最も多く、人口減少や高齢化に伴う担い手不足が深刻化していることがうかがえます。

■団体の活動における問題点・課題(関係団体)



■事業活動における問題点・課題(事業者)

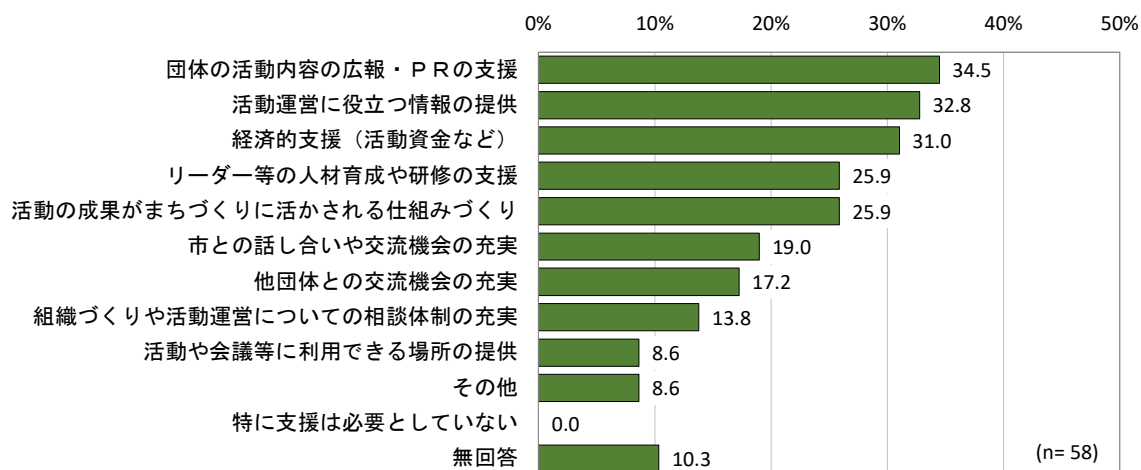


2. 活動の充実に向けて市に期待すること

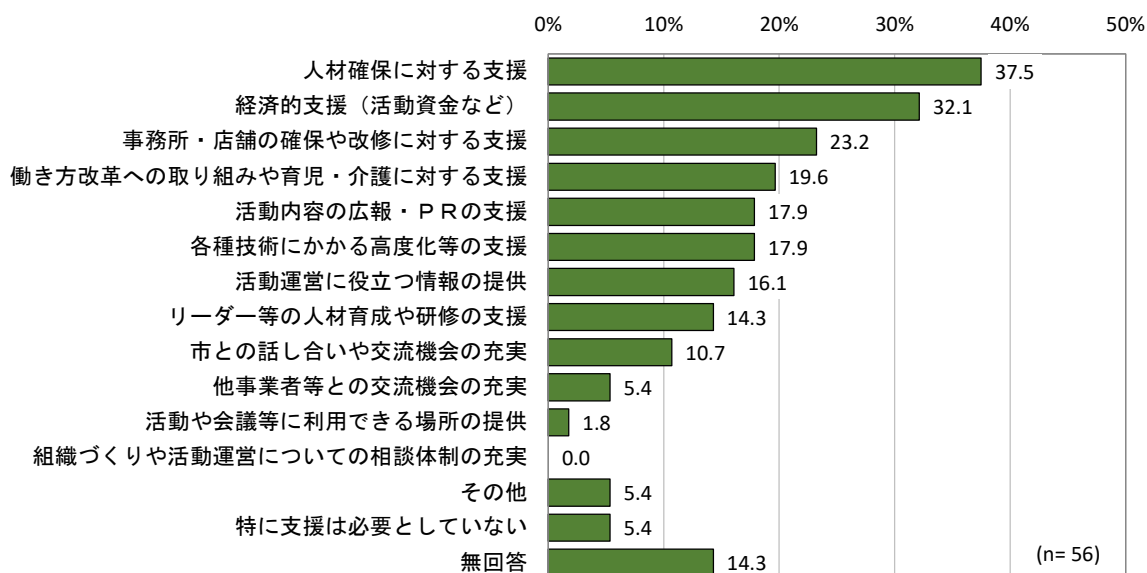
関係団体がその活動充実のため市に期待する支援は、「団体の活動内容の広報・PRの支援」が34.5%で最も多く、次いで「活動運営に役立つ情報の提供」(32.8%)、「経済的支援(活動資金など)」(31.0%)が続いています。

事業者が市に期待する支援としては、「人材確保に対する支援」が37.5%で最も多く、次いで「経済的支援(活動資金など)」が32.1%で続いている状況です。

■活動の充実に向けて市に期待すること(関係団体)



■活動の充実に向けて市に期待すること(事業者)

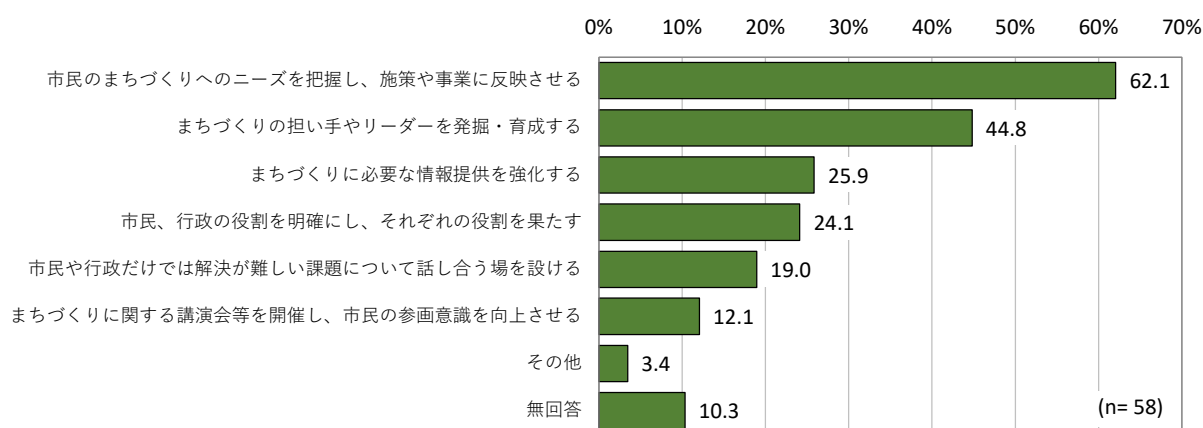


3. 協働のまちづくりを進めるために重要なこと

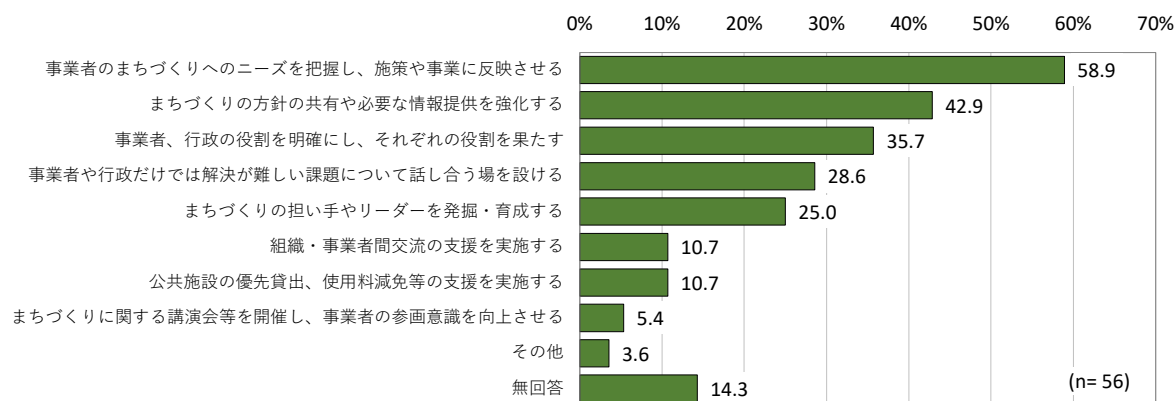
市民と行政が協働のまちづくりを進める上で重要なことは、関係団体及び事業者ともに「市民のまちづくりへのニーズを把握し、施策や事業に反映させる」が60%前後でほかの選択肢を引き離して高くなっています。

関係団体は、ほかに「まちづくりの担い手やリーダーを発掘・育成する」(44.8%)が上位回答になっており、事業者は「まちづくりの方針の共有や必要な情報提供を強化する」(42.9%)、「事業者、行政の役割を明確にし、それぞれの役割を果たす」(35.7%)が上位回答となっています。

■市民と行政が協働のまちづくりを進めるために重要だと思うこと(関係団体)



■事業者と行政が協働のまちづくりを進めるために重要だと思うこと(事業者)

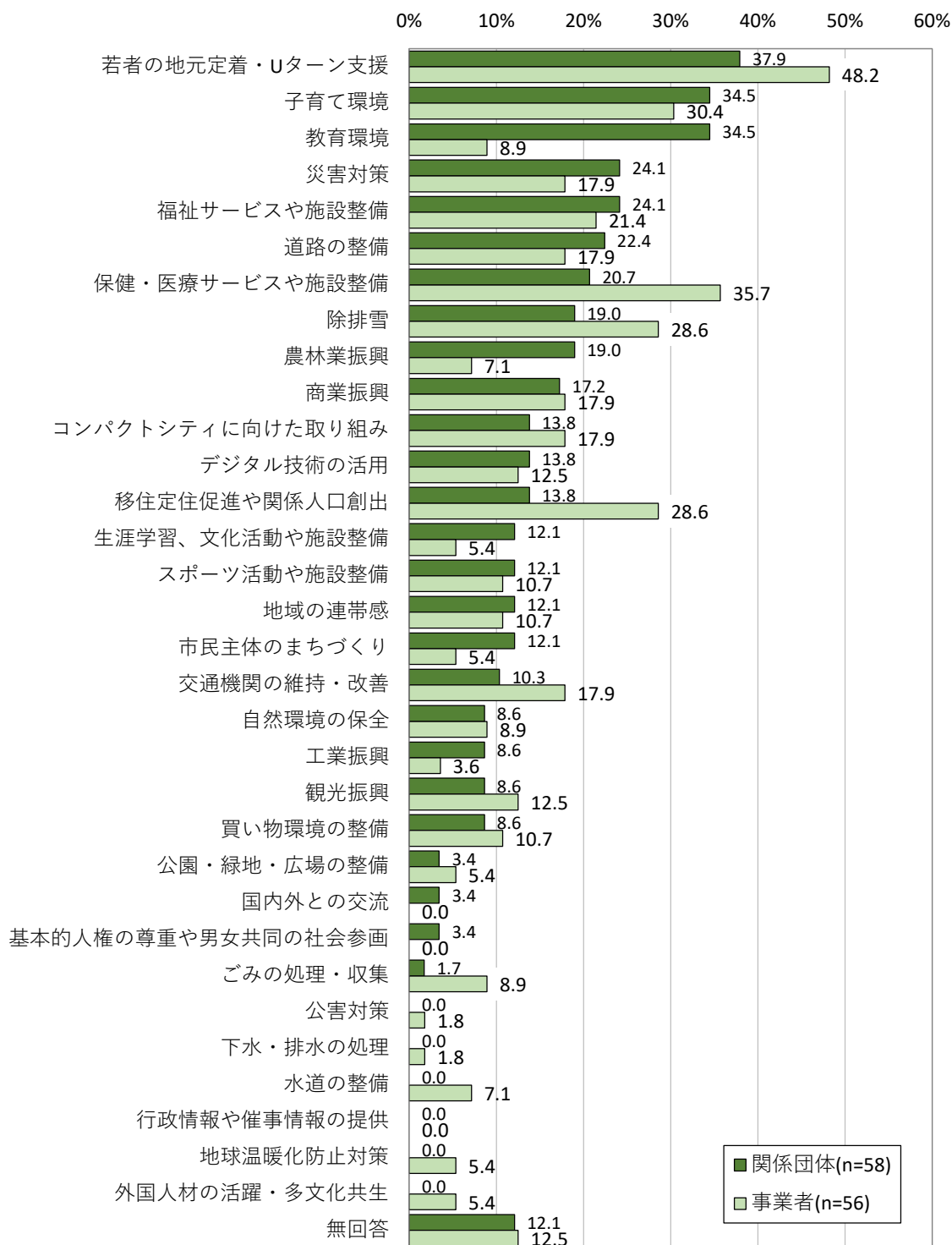


4. 今後、市が特に力を入れるべきこと

市が今後のまちづくりにおいて特に力を入れるべきことは、関係団体及び事業者ともに「若者の地元定着・Uターン支援」が最も多く、特に事業者はその割合が48.2%と高くなっています。

関係団体は、ほかに「子育て環境」「教育環境」が上位回答になっている一方、事業者は「保健・医療サービスや施設整備」(35.7%)、「除排雪」(28.6%)、「移住定住促進や関係人口創出」(28.6%)の割合も高くなっています。

■今後のまちづくりにおいて市が特に力を入れるべきこと



V 市職員アンケート調査結果

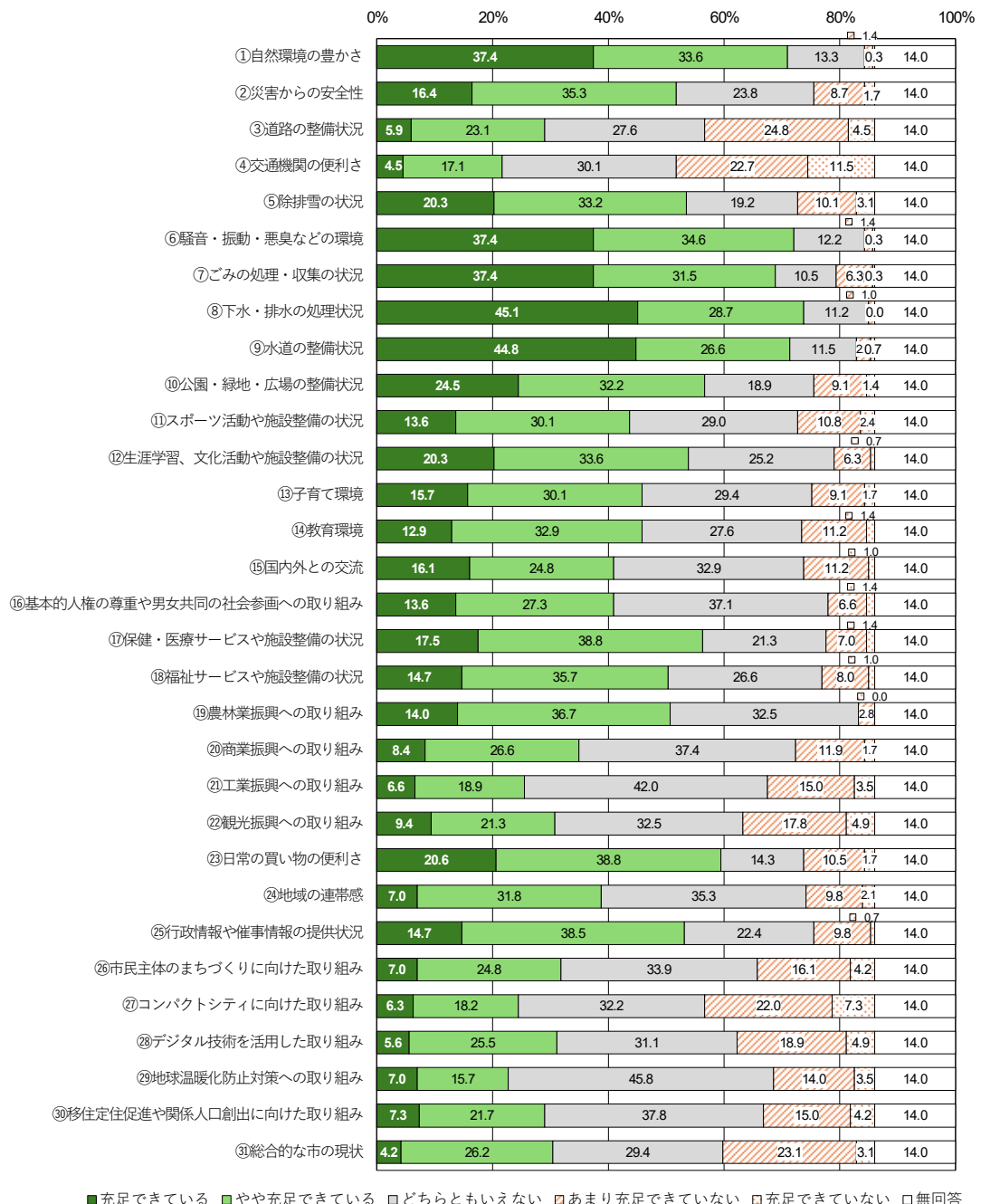
1. 施策項目別の充足度と重要度

(1)現状の施策項目における充足度

主要施策項目で「充足できている」「やや充足できている」の合計割合をみると、「⑧下水・排水の処理状況」が73.8%で最も高く、ほかに「⑥騒音・振動・悪臭などの環境」(72.0%)や「⑨水道の整備状況」(71.4%)、「①自然環境の豊かさ」(71.0%)が70%を超えています。

一方、「あまり充足できていない」「充足できていない」の合計が高いのは、「④交通機関の便利さ」(34.2%)、「③道路の整備状況」(29.3%)、「⑦コンパクトシティに向けた取り組み」(ともに29.3%)となっています。

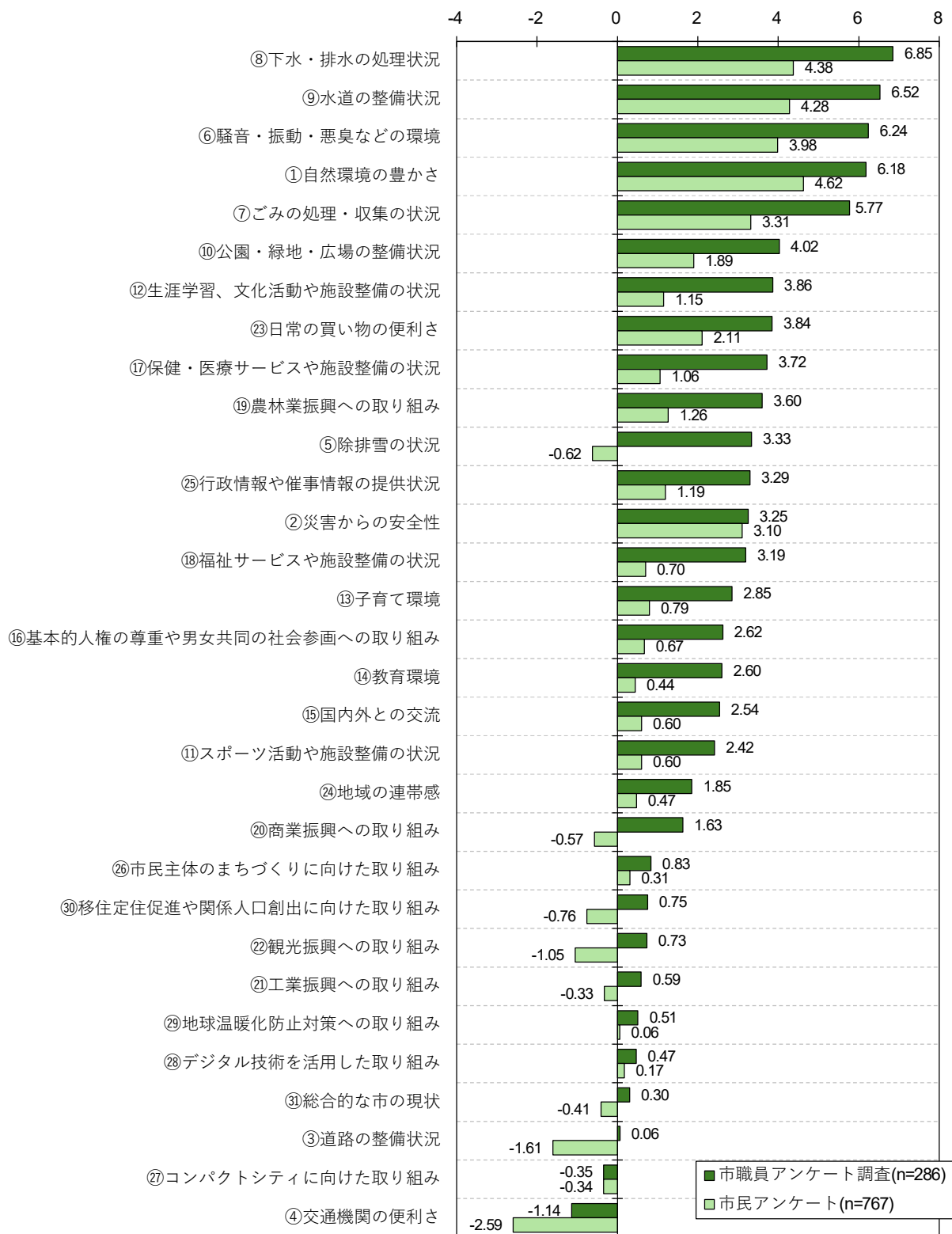
■現状の施策項目における充足度



(2)充足度の評価点

充足度の回答結果から評価点を算出し、評価点の高い順(充足度が高い順)に並べた結果は下記のとおりです。主要施策項目の中では「⑧下水・排水の処理状況」「⑨水道の整備状況」の充足度が高い一方、「②コンパクトシティに向けた取り組み」「④交通機関の便利さ」は充足度が低くなっています。

■市職員の充足度評価点と市民の満足度評価(評価点の高い順)



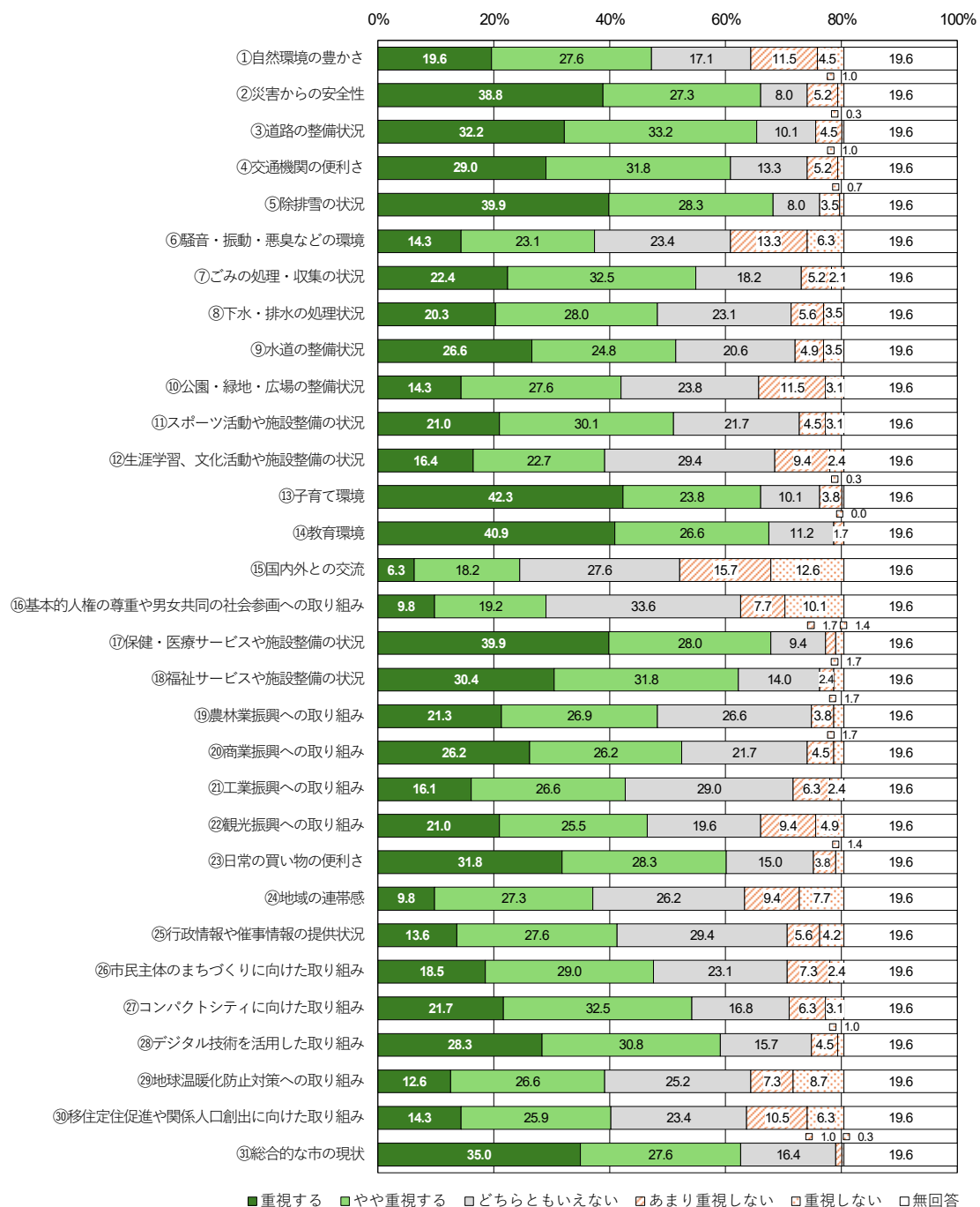
※評価点は「充足できている」を10点、「やや充足できている」を5点、「どちらともいえない」を0点、「あまり充足できていない」を-5点、「充足できていない」を-10点とし、合計得点を回答数で割って計算。

(3)今後の施策項目における重要度

主要施策項目で「重視する」「やや重視する」の合計割合をみると、「⑤除排雪の状況」が68.2%で最も高く、次いで「⑪保健・医療サービスや施設整備の状況」(67.9%)、「⑭教育環境」(67.5%)が上位項目として続いています。

一方、「あまり重視しない」「重視しない」の合計が高いのは、「⑮国内外との交流」が28.3%で最も高く、次いで「⑥騒音・振動・悪臭などの環境」が19.6%で続いています。

■今後の施策項目における重要度

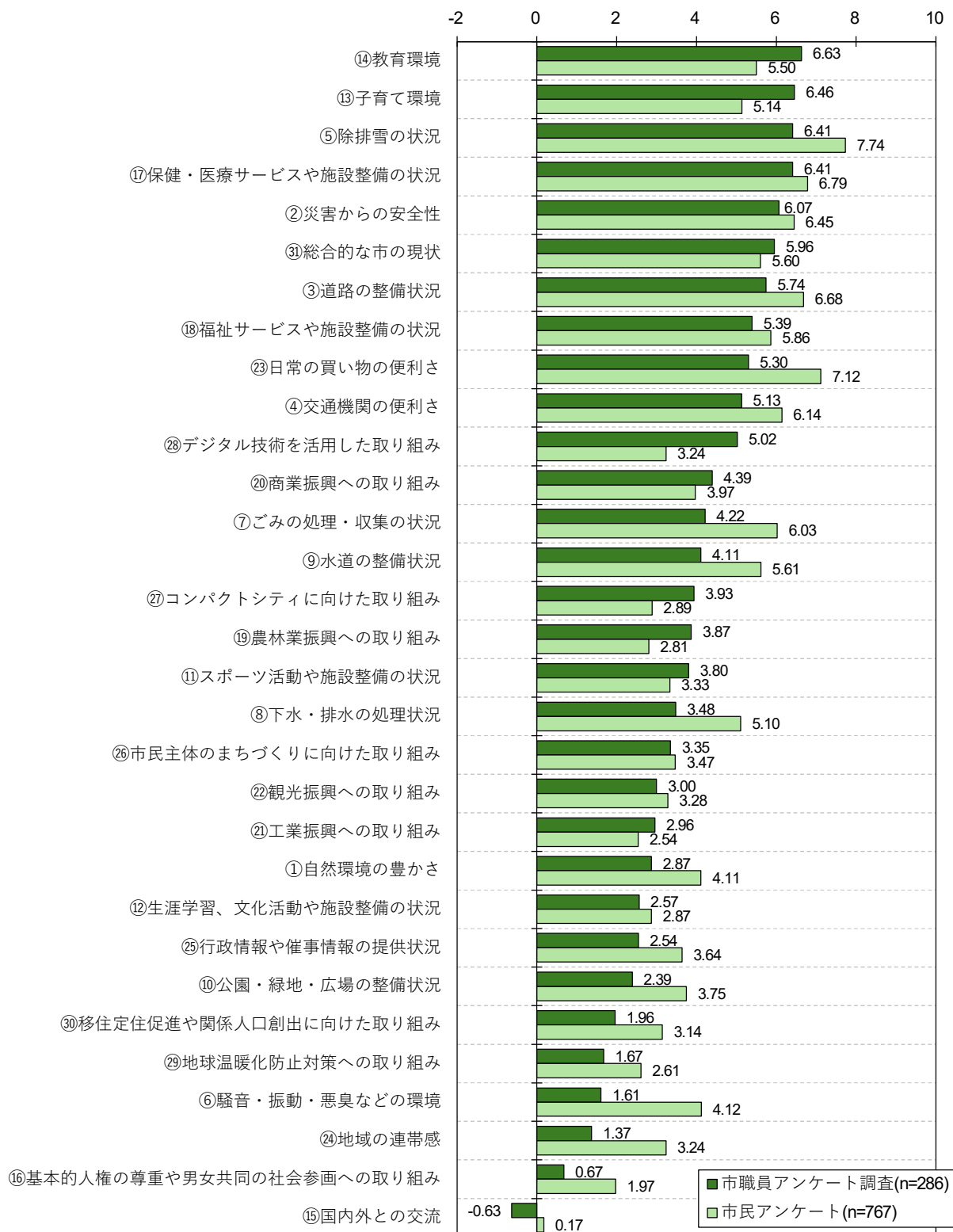


(4)重要度の評価点

重要度の回答から評価点を算出し、評価点の高い順(重要度が高い順)に並べた結果は下記のとおりです。

主要施策項目の中では「⑭教育環境」「⑬子育て環境」「⑤除排雪の状況」及び「⑰保健・医療サービスや施設整備の状況」が上位となっている一方、「⑮国内外との交流」は-0.63点と低い状況です。

■重要度の評価点(評価点の高い順)



※評価点は「重視する」を10点、「やや重視する」を5点、「どちらともいえない」を0点、「あまり重視しない」を-5点、「重視しない」を-10点とし、合計得点を回答数で割って計算。

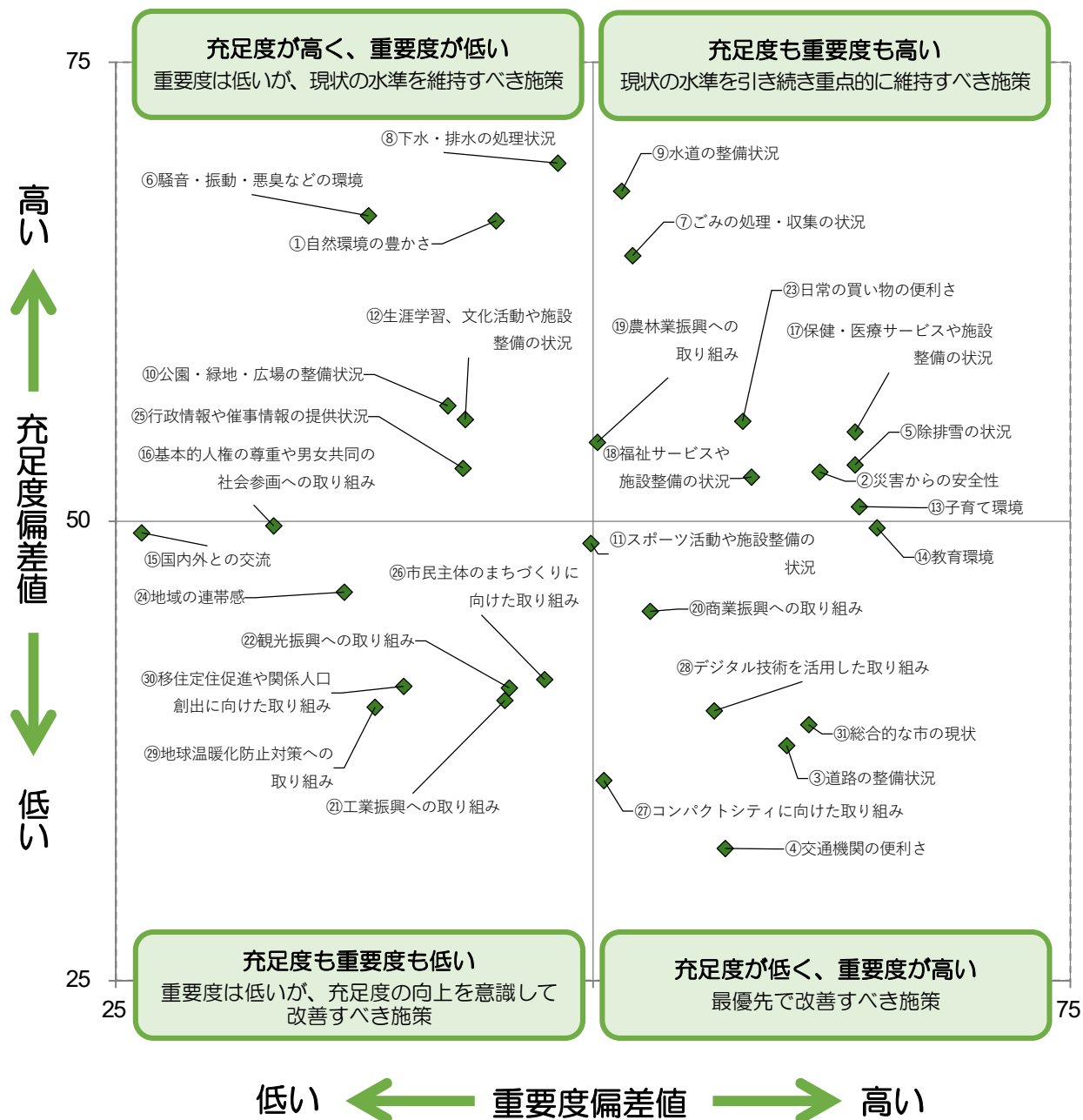
(5) 充足度評価点と重要度評価点の分布

市が進める施策項目に関して、「現状の充足度」と「今後の重要度」の集計結果に基づく分析を行いました。

下図の右下「充足度が低く、重要度が高い」の領域に含まれる施策は、ほかの施策と比べて優先した対応が望まれ、右下に位置付けられるほど改善の優先度が高い項目と考えられます。

本市の施策項目の中では「④交通機関の便利さ」「③道路の整備状況」は改善の優先度が非常に高いと考えられます。

■ 施策項目別の充足度と重要度の分布



2. 名寄市が目指すべきまちづくりの方向

多くの職員が「持続可能性」と「定住」をキーワードに挙げており、主に3つの方向性の意見がありました。

コンパクトシティの推進	人口減少を見据え、公共施設や住宅を集中させ、維持管理コストを抑えた効率的な街づくり。
若年層・移住者の定住	観光やスポーツ(特に合宿など)をフックに、名寄の魅力を発信して「選ばれる街」になること。
「生活の質」の維持	医療、子育て、教育環境が整っており、市民が安心して住み続けられる環境。

3. 重視すべき視点や重点課題

深刻な人口流出	高校卒業時や就職時の若者の流出。特に「移住対策」よりも「今いる若者の定着(結婚・子育て支援)」を優先すべきとの声が多い。
経済基盤(農業・産業)の強化	市の経済の核である農業の強化と、農業以外の雇用を生む産業(企業誘致など)の育成。
雪対策と生活インフラ	高齢化に伴う除排雪への不安解消と、老朽化した道路・施設の更新。
財政の健全化	限りある予算をどこに集中投下するかを選択と集中。

4. 重点施策案の主要意見

(1)市民参画・行財政分野

DXの徹底推進	窓口業務の一元化、コンビニ交付、SNSを活用した情報発信の強化。
業務の効率化と働き方改革	慢性的な人手不足への対応として、事務の簡素化やAI活用、職員の労働環境(庁舎環境など)の改善。
コミュニティの再編	負担が重くなっている町内会組織のあり方の見直しと、行政に頼りすぎない市民意識の醸成。

(2)保健・医療・福祉分野

子育て支援の充実	出産費用の助成、保育料の無償化、病児保育の充実。金銭的な不安をなくす直接的な支援。
医療体制の維持・強化	医師・看護師の確保。市立病院を中心とした地域医療の安定。
高齢者支援	独居高齢者の見守りや、移動支援(公共交通)の充実。

(3)生活環境・都市基盤分野

除排雪の効率化	除雪方法の工夫や、市民への負担(玄関前の雪塊など)を軽減する仕組みづくり。
インフラの長寿命化と集約	全ての道路・施設を維持するのは不可能なため、優先順位の明確化と、施設の複合化による総面積の削減。
公共交通の再構築	自家用車がなくても移動できる交通網の整備。

(4)産業振興分野

農業のスマート化・高付加価値化	名寄市の強みである農業を起点としたブランディング。
企業誘致と雇用創出	王子マテリア跡地の有効活用や、テレワーク等の新しい働き方に対応した企業誘致。
観光のパッケージ化	単発のイベントではなく、宿泊や食(煮込みジンギスカン以外も含めた素材の魅力)を組み合わせた収益モデル。

(5)教育・文化・スポーツ分野

名寄高校の魅力向上	市外への流出を防ぐため、大学進学や特色ある教育の強化。
夏季スポーツへの投資	冬季スポーツだけでなく、野球や陸上などの夏季種目の施設充実と合宿誘致。
学校の再編	小中学校の適正規模化(統合)と、教育環境の質の向上。